

(4) 在庫の状況

自主流通米の平成15年10月末の持越在庫は13万トン。
 すでに全量販売が完了
 16年2月末現在、90万トンの政府備蓄米が存在。備蓄米のうち、12年産、13年産、14年産米は、ほぼ全量契約済み
 卸売業者の月末在庫は近年30万トン程度で推移。しかしながら、15年産米の作柄状況等を踏まえ、16年2月末には76万トンの在庫が存在

(ア) 民間流通米(自主流通米)の在庫の状況

自主流通米の平成15年10月末の持越在庫は、15年産米の収穫の遅れや生産量の減少を背景に、

-) 14年以前産米について、15年7月以降の販売が好調であったこと
 -) 14年産米の調整保管が取り崩されたこと
- 等から、13万トンとなっています(表3-9)。

なお、この13万トンについては、16年1月末までに全量販売が完了しています。

表3-9 自主流通米の平成15年10月末持越在庫の内訳

(単位:万トン)

主食用うるち米				もち米	合計
平成14年産		13年産			
販売残	一括所有権移転	販売残	一括所有権移転		
2	3	7	1	0	13

資料:自主流通法人調べ

- 注:1) 販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。
- 2) 「一括所有権移転」とは、受渡期限(10月末)が到来した米穀について、全国集荷団体(自主流通法人)から、販売業者へ10月末に一括して販売することである。
- 3) 在庫量は全量契約締結済みである。

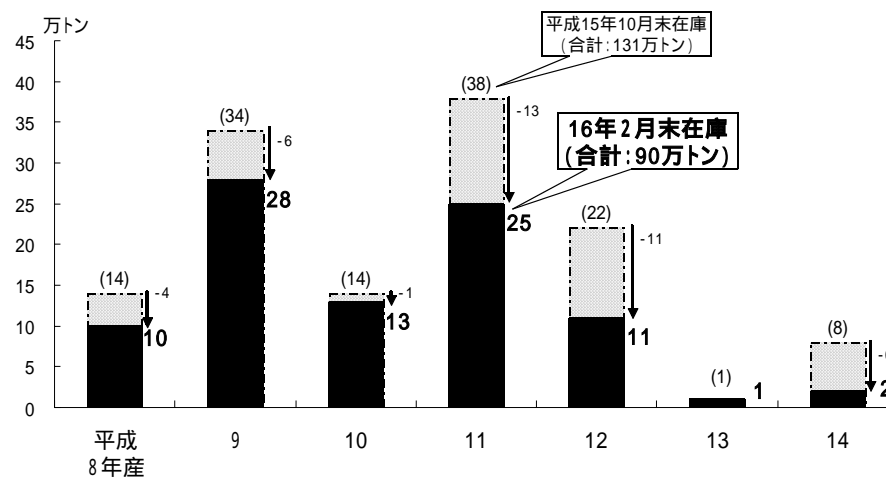
(イ) 政府備蓄米の状況

前述のように、販売事業者の購入意欲の高まりにより、平成15年9月以降は前年と比べ、一部の銘柄を除き、大幅に販売が進みました。

このため、政府米の16年2月末現在の備蓄量は、90万トン（速報値）となっています。（図3-11）

16年2月末現在で、未だ契約が結ばれていない政府米銘柄は、10年産「北海道きらら397」の6.4万トン、続いて11年産「北海道きらら397」の5.8万トンで、12年産、13年産、14年産の在庫は、ほぼ全量が契約済みとなっていることから、16年2月末現在では、9～11年産を中心に販売が行われています。（表3-10）

図3-11 政府備蓄米の在庫状況（平成16年2月末現在）



資料：農林水産省調べ

注：2月末の在庫については速報値である。

表3-10 政府備蓄米（未契約）の主要産地品種銘柄別内訳

（単位：万トン）

年産	1		2		3	
	産地品種銘柄	数量	産地品種銘柄	数量	産地品種銘柄	数量
8年産	北海道 きらら397	1.7	栃木 月の光	1.0	栃木 その他	0.7
9年産	北海道 きらら397	5.3	青森 むつほまれ	4.0	北海道 あきほ	1.8
10年産	北海道 きらら397	6.4	青森 むつほまれ	1.5	北海道 あきほ	1.0
11年産	北海道 きらら397	5.8	青森 むつほまれ	2.6	北海道 ほしのゆめ	2.3

資料：農林水産省調べ

注：1) 平成16年2月末現在の未契約数量の値である。

2) 未契約数量が多い上位3産地品種である。

3) 「栃木 その他」とは、栃木県産米のうち、産地品種銘柄米を除くものの合計である。

4) 3等米を除く。

(ウ) 流通在庫の状況

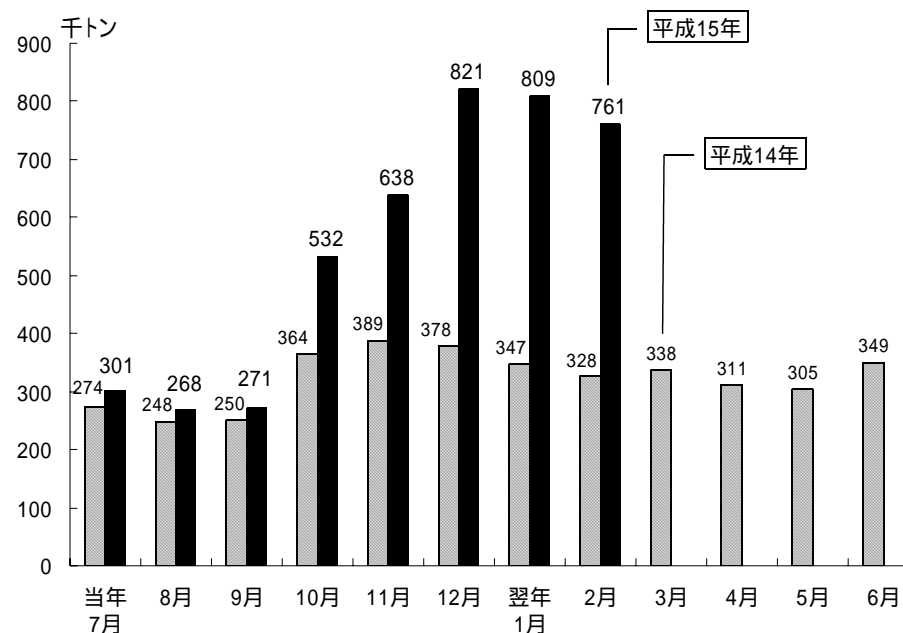
販売事業者を中心に、先行きの不透明感等から、必要とする量の確保が積極的に行われてきたこと等から、平成15年2月末現在の卸売業者の流通在庫は76万トンと、前年同月に比べ2倍強(43万トン増)と増加しています(図3-12)。

しかしながら、

-) 出来秋から年末まで上昇傾向で推移してきた自主流通米価格も1月、2月は値下がり傾向にあること
-) 16年3月末までに販売事業者が国から引き取る予定の契約済み政府米がかなり存在すること

等を踏まえると、今後の流通在庫の動向は、自主流通米、政府米の販売や価格動向等に影響を与えられられることから、注視していく必要があります。

図3-12 卸売業者の月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ

- 注：1) 月末在庫は、うるち玄米及びうるち精米の数量である。
- 2) 平成15年11～16年2月の値は速報値である。

(5) 価格の動向

平成15年産の自主流通米の入札価格は、生産量の減少等の影響から、一時期は前年同期より5割程度高かったが、年明け以降やや落ちつき、16年2月時点では前年同期に比べて3割程度高い水準

産地品種銘柄ごとの入札価格については、全体として高水準の中で、需給に応じた様々な値動きが見られる

15年産の加工原材料用米の価格についても、前年産を上回って推移

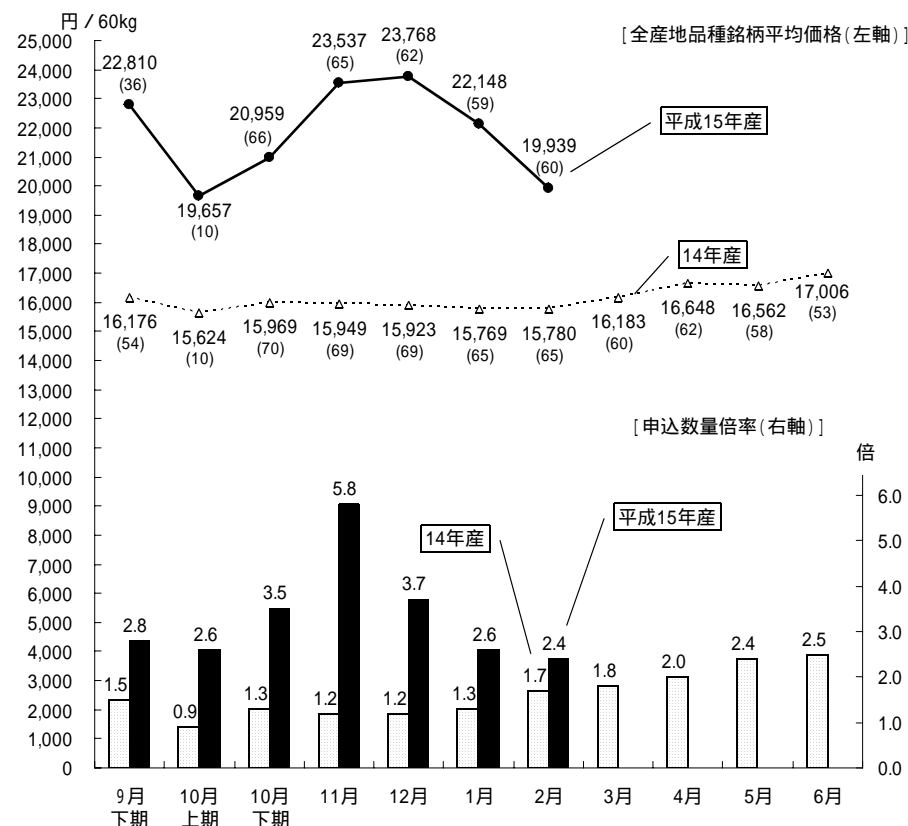
15年産米の卸売・小売価格は、16年2月時点で、前年同期に比べて概ね3～4割程度高い水準

(ア) 入札価格の動向

平成15年産の自主流通米の入札価格は、15年産米の作柄不良や出回りの遅れ等により、当初上場玉が少量にとどまっていたことから、卸売業者の応札意欲が高まり、高水準で推移しました。その後も、自主流通米の集荷が低調に推移していたことや、卸売業者が前倒しで15年産米を確保しようとしたこともあり、入札価格は、第6回入札（15年10月下旬）以降、上昇を続け、第8回入札（15年12月）では、前年同期に比べて概ね5割程度（8,000円/60キログラム）高くなり、申込数量倍率も3.7倍と前年同期を大きく上回りました（図3-13）。

その後、流通在庫が大幅に増加している状況や、米の価格が消費者にとって値頃感のある価格帯から大きく乖離してしまったことから、卸売業者の応札意欲が減退した結果、第10回入札（16年2月）の価格は、前年同期に比べて概ね3割程度（4,000円/60キログラム）高い水準であるものの、最高値（15年12月）に比べれば概ね2割程度低くなっています。また、申込数量倍率も、2.4倍まで下がっています。

図3-13 月別にみた自主流通米の全産地品種銘柄平均入札価格、申込数量倍率の推移



資料：(財)自主流通米価格形成センター調べ

注：()書きは、上場産地品種銘柄数である。

主要な産地品種銘柄毎の価格動向を見ると、全産地品種銘柄平均価格の動きと同様に、年明け以降、それまで上昇基調にあった価格が下落に転じており、第10回入札（平成16年2月）では、当初25,000円/60キログラムを超える高水準にあった「新潟コシヒカリ（一般）」についても、一定量が確保されたこと等から、前年同期を1割強上回る水準にまで値を下げています（表3-11、図3-14）。

また、作柄不良による品薄感から一時価格が急騰していた「宮城ひとめぼれ」についても、価格が大幅に上昇したことに対する反動や、低温・日照不足による充実不足等の品質に対する懸念が広まったこと等から、その後他の産地品種銘柄に比べて相対的に大きく下落しました。

なお、特定需要もあることから、他の産地品種銘柄の価格が反転する中でも高騰を続けていた「新潟コシヒカリ（魚沼）」についても、第10回入札（平成16年2月）においてはじめて下落に転じています。

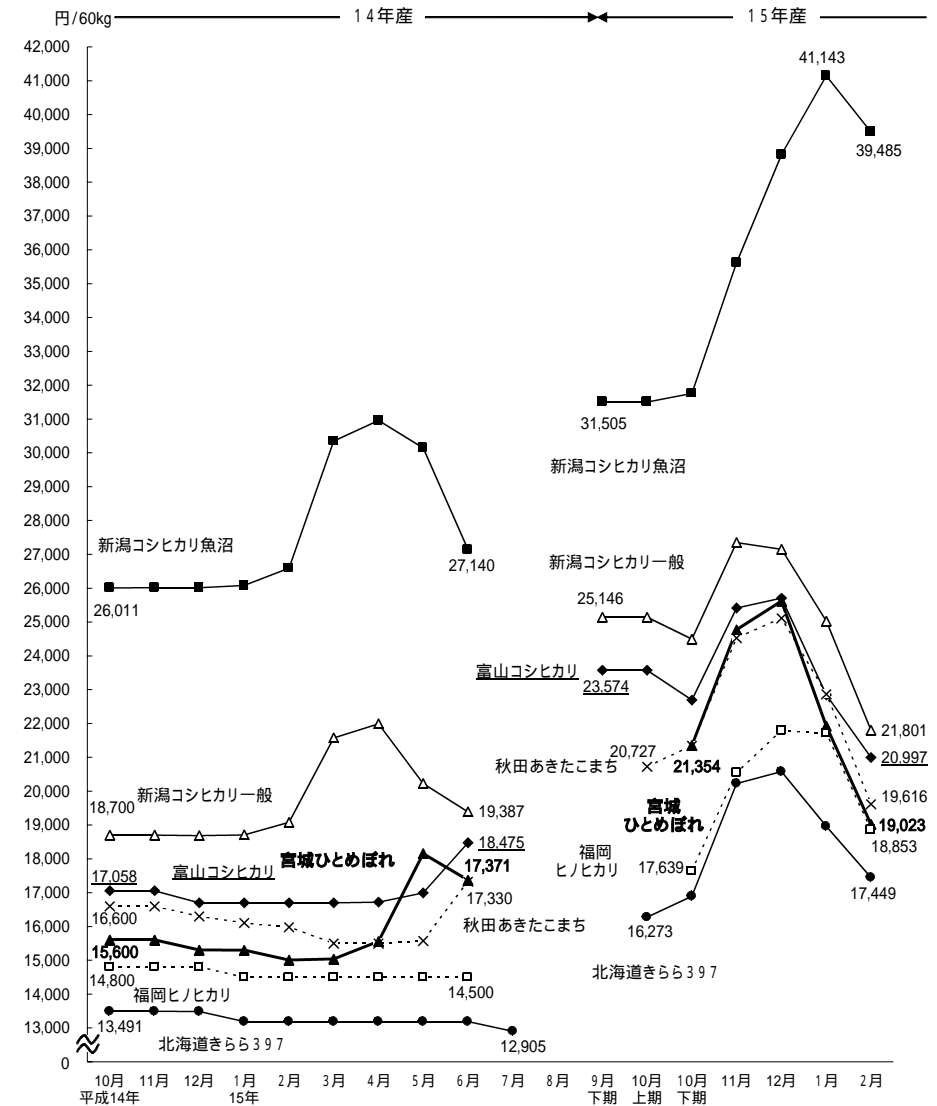
表3-11 産地品種銘柄別センター取引結果（平成15年産第10回（16年2月24日））

（単位：円/60kg、トン、%、倍）

産地品種銘柄	受渡地	今回指標価格	対前年同期比	上場数量	落札残比率	申込倍率
北海道 さらさら397	東京	17,449	132.3	2,978	0.0	2.9
北海道 ほしのゆめ	東京	18,343	131.8	1,183	0.0	2.4
青森 つがるロマン	東京	18,888	131.6	1,145	0.0	3.1
岩手 ひとめぼれ	東京	19,255	128.3	3,240	0.0	1.6
宮城 ひとめぼれ	東京	19,023	126.8	3,953	0.0	1.9
秋田 あきたこまち	東京	19,616	122.8	5,724	0.0	2.1
山形 はえぬき	東京	19,275	125.5	1,404	0.0	1.6
庄内 はえぬき	東京	19,272	126.0	2,040	0.0	1.7
茨城 コシヒカリ	東京	20,155	126.0	1,015	0.0	2.8
栃木 コシヒカリ	東京	19,694	123.1	2,527	0.0	2.4
新潟 コシヒカリ一般	東京	21,801	114.3	6,610	0.0	2.7
富山 コシヒカリ	東京	20,997	125.7	3,672	0.0	1.8
石川 コシヒカリ	大阪	20,314	124.6	1,440	0.0	2.4
長野 コシヒカリ	東京	20,763	126.5	1,037	0.0	2.6
全銘柄平均		19,939	126.4	63,922	0.0	2.4

資料：（財）自主流通米価格形成センター調べ
注：平成14年産の上場数量上位15銘柄である。

図3-14 主要な産地品種銘柄の月別指標価格の推移



資料：（財）自主流通米価格形成センター調べ

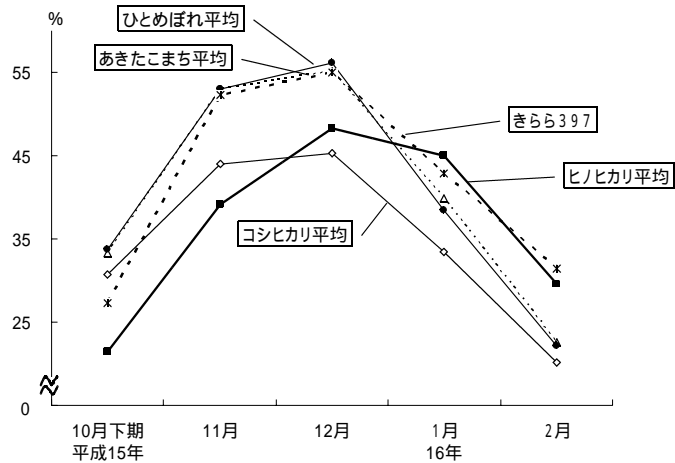
また、平成15年産入札価格の対前年増減率の推移を品種銘柄別に見ると、出来秋当初は、「コシヒカリ」、「あきたこまち」、「ひとめぼれ」等の主に単品銘柄として流通する比較的価格の高い銘柄を確保しようとする動きから、これらの銘柄の価格が前年同期を大きく上回って推移しました。しかし、その後、

これらの銘柄について一定の必要量が確保されたこと
単品銘柄の価格が高くなり過ぎ、ブレンド米の需要が伸びたこと

等から、「ヒノヒカリ」、「きらら397」等の割安感のあった銘柄の引き合いが高まりました。その結果、年明け以降は、これらの銘柄の価格の上昇率が「コシヒカリ」、「あきたこまち」、「ひとめぼれ」を上回っています（図3-15）。

このような値動きの結果、出回り当初（15年10月）では、前年に比べ銘柄間の価格格差が拡大していましたが、年明けの16年2月には、逆に銘柄間の格差が縮小する状況となっています（図3-16）。

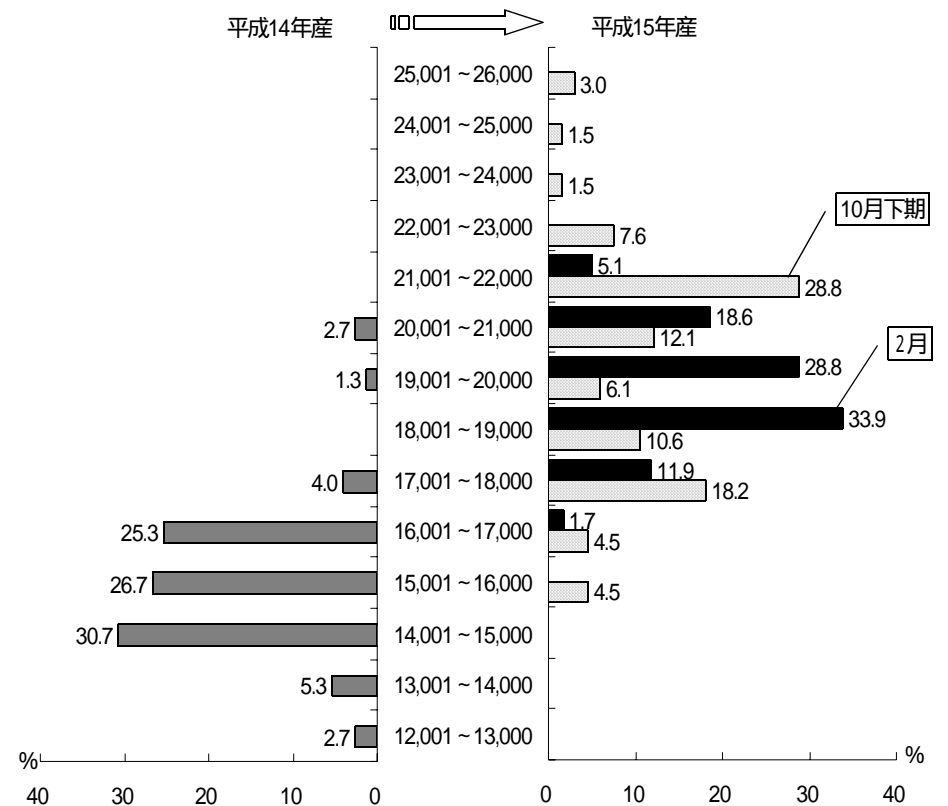
図3-15 品種銘柄別にみた入札価格の対前年同期比増減率の推移（平成15年産）



資料：(財) 自主流通米価格形成センター調べ

注：平成14年産の通年加重平均価格に対する増減率の値である。

図3-16 価格帯別にみた銘柄数の割合の推移



資料：(財) 自主流通米価格形成センター調べ

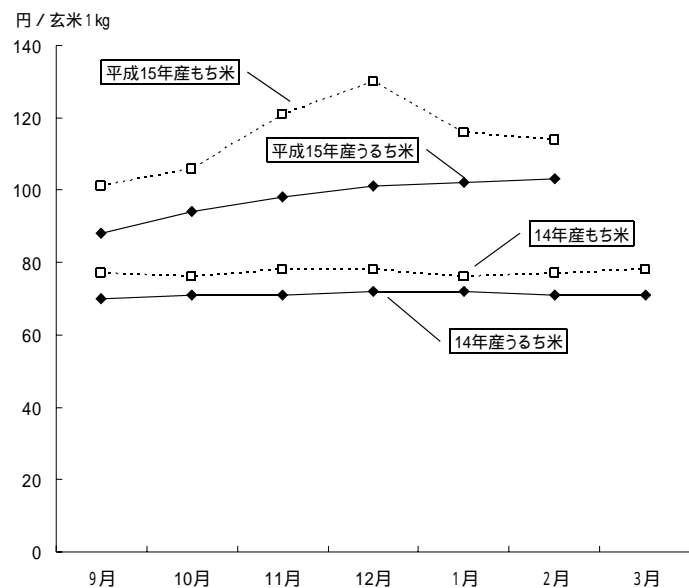
注：1) 入札毎の上場銘柄数(新潟コシヒカリ(魚沼)を除く)に占める各価格帯の銘柄数の割合である。

2) 平成14年産は通年加重平均価格である。

(イ) 用途別の価格の動向

前述のように(表3-3)、平成15年産のもち米の価格が高騰しましたが、各種加工原材料用米等の販売価格についても、15年産については、いずれも前年同期を上回って推移しています(図3-17、図3-18)。

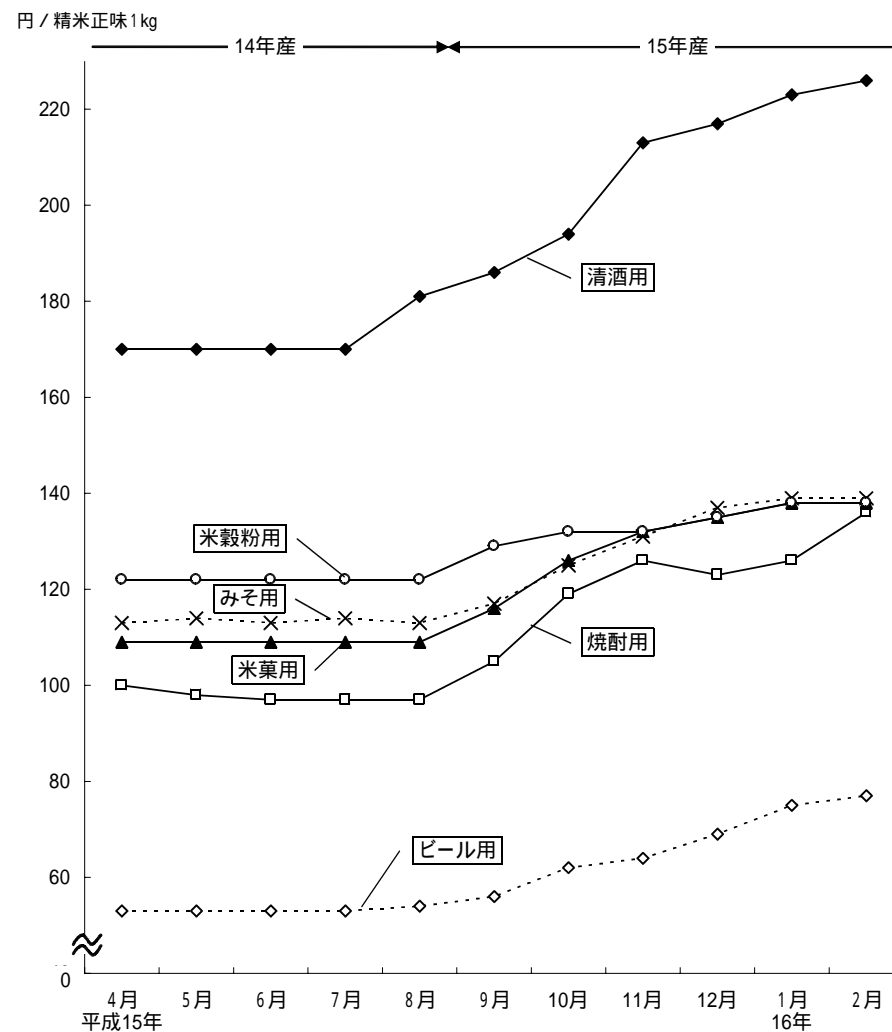
図3-18 くず米等(うるち、もち米)の販売価格の推移



資料：農林水産省「米麦等の取引動向調査」

- 注：1) 生産者の全国平均販売価格(消費税込み)である。
 2) くず米等の価格については、当年9月～翌年3月の調査となっている。

図3-17 原材料用米の販売価格の推移



資料：農林水産省「米麦等の取引動向調査」

注：販売業者が実需者(用途別)へ販売した全国平均価格(消費税込み)である。

(ウ) 卸売・小売価格の動向

前述のように、政府は、平成15年産米の作柄不良や出回りの遅れが懸念された時点から、米の卸売・小売価格の調査を充実させており、従来から実施していた毎月1回の調査に加えて、毎週調査を実施しています。

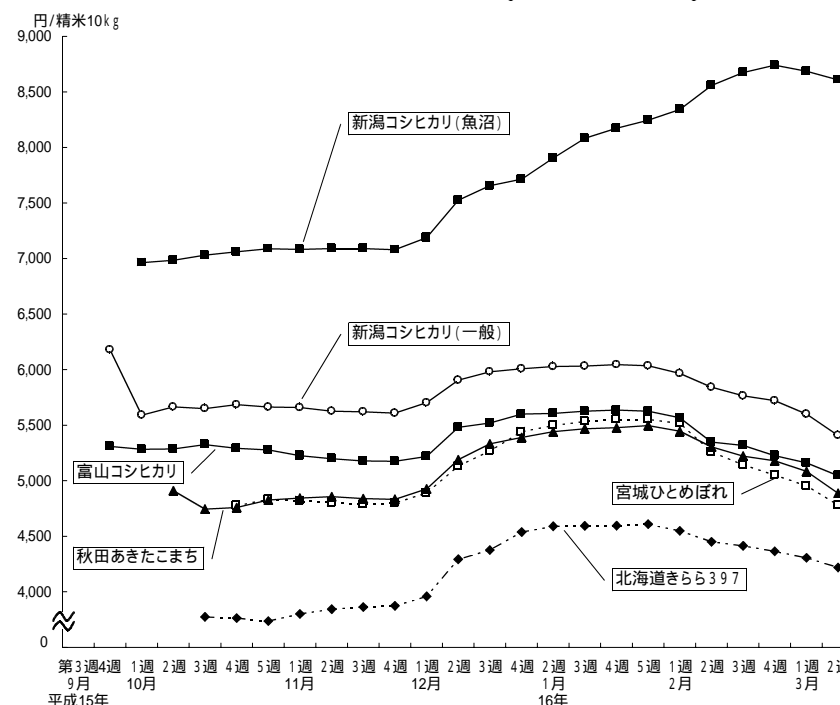
平成15年産米の週毎の卸売価格の動向を主要産地品種銘柄毎に見ると、15年11月における自主流通米の入札価格が全面的に高騰したことによる影響で、価格改定が相次いだことから、同年12月第1週以降の卸売価格は、同年11月末時点に比べて大きく上昇しました(図3-19)。

その後、緩やかな上昇が続いていましたが、16年1月の入札において、ほとんどの産地品種銘柄の価格が反落したことを受けて、同年2月第1週以降の卸売価格は、下落に転じてます。

なお、この間、継続して上昇基調にあった新潟コシヒカリ(魚沼)の卸売価格についても、16年2月の入札価格が下落したことを受けて、3月第1週に下落に転じています。

以上の結果として、16年3月第2週時点の卸売価格は、前年同期と比べて2割から4割程度高い水準となっています。

図3-19 米の週別卸売価格の推移(平成15年産)



(参考) 平成16年3月第2週の卸売価格の増減率(対前年同期比)

(単位: 円/精米10kg、%)

産地品種銘柄	価格	増減率
新潟コシヒカリ(魚沼)	8,608	41.7
新潟コシヒカリ(一般)	5,408	23.6
富山コシヒカリ	5,046	28.3
秋田あきたこまち	4,887	27.0
宮城ひとめぼれ	4,779	29.4
北海道きらら397	4,219	29.9

資料: 農林水産省「米麦等の取引動向調査(週報)」

注: 1) 主要6産地品種銘柄の精米10kg当たりの全国平均価格(包装、消費税込み)である。

2) 平成15年3月との比較である。

続いて、平成15年産米の週毎の小売価格の動向を主要産地品種銘柄毎に見ると、卸売価格と同様に、15年11月の入札価格の高騰を受けて、12月第1週以降上昇を続けていましたが、16年1月の入札価格が反落したことから、同年2月第1週以降の小売価格については、下落に転じています(図3-20)。

なお、この間、新潟コシヒカリ(魚沼)の小売価格については、購買力のある階層等の固定需要の存在等により、上昇傾向が続いています。

平成15年産米の入札価格が大きく変動する中で、小売価格については、卸売価格に比べて緩やかに変動する傾向が見受けられます。

これは、

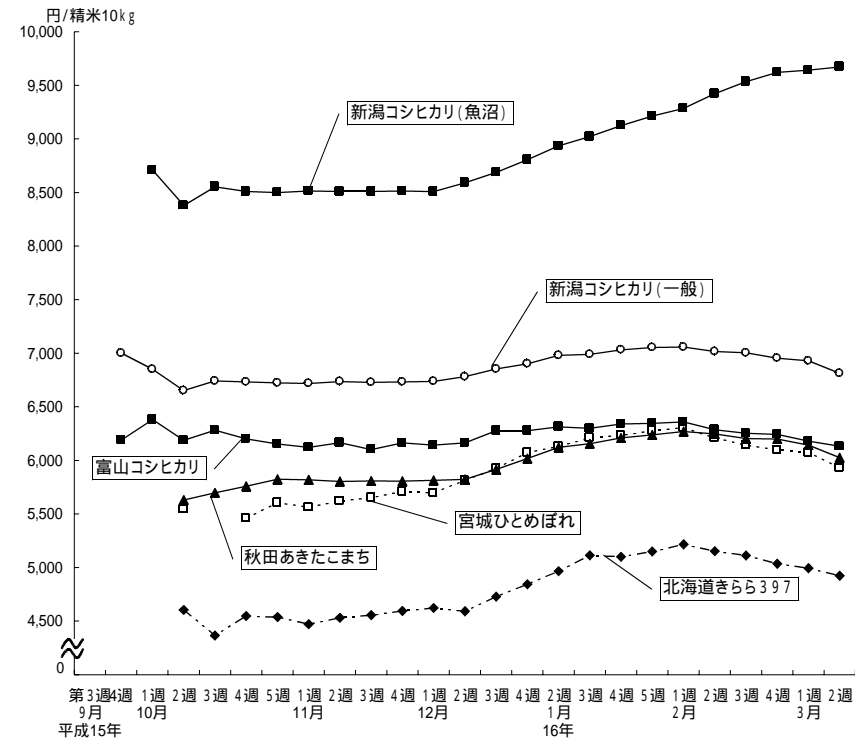
量販店が、精米での仕入れを行い、比較的短期間で商品を回転させる一方、店頭精米店では、玄米在庫を持ち、仕入回数が少ないというように、販売形態等の差により価格改定にタイムラグが見られること、

販売不振につながる懸念から、消費者への価格転嫁が困難であること

等が要因であると考えられます。

平成16年3月第2週時点の小売価格は、前年同期と比べて3割程度高い水準となっています。

図3-20 米の週別小売価格の推移(平成15年産)



(参考) 平成16年3月第2週の小売価格の増減率(対前年同期比)

(単位: 円/精米10kg、%)

産地品種銘柄	価格	増減率
新潟コシヒカリ(魚沼)	9,671	29.8
新潟コシヒカリ(一般)	6,812	28.4
富山コシヒカリ	6,132	26.2
秋田あきたこまち	6,026	30.5
宮城ひとめぼれ	5,930	30.8
北海道きらら397	4,923	25.4

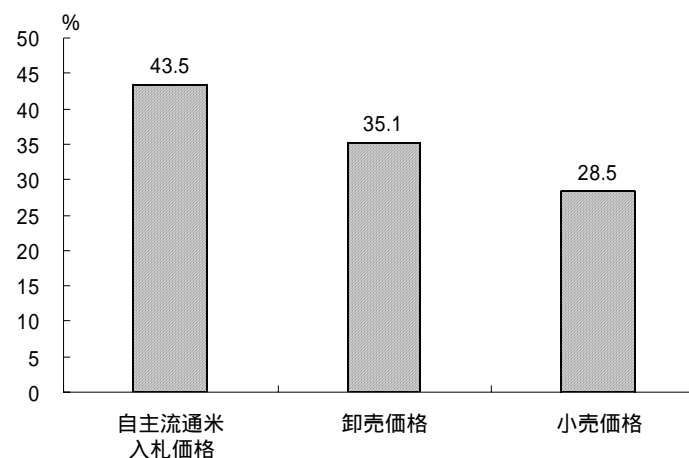
資料: 農林水産省「米麦等の取引動向調査(週報)」

注: 1) 主要6産地品種銘柄の精米10kg当たりの全国平均価格(包装、消費税込み)である。

2) 平成15年3月との比較である。

こうした状況の中で、平成15年産米の各流通段階別の価格上昇率の状況を見ると、自主流通米入札価格の上昇率が卸売価格の上昇率を、卸売価格の上昇率が小売価格の上昇率をそれぞれ上回っています(図3-21)。このことから、販売事業者による便乗値上げ等の動きは見られず、むしろ、消費者の価格に対する選好が厳しく、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁することが難しい、販売事業者にとっては厳しい状況となっていることがうかがわれます。

図3-21 平成15年産米の流通段階別に見た価格上昇率の状況
(15年11月～16年2月)



資料：農林水産省「米麦等の取引動向調査(月報)」、(財)自主流通米価格形成センター調べを基に農林水産省において試算

注：1) 「米麦等の取引動向調査(月報)」における主要10産地品種銘柄を対象とした。

2) 自主流通米入札価格は、平成15年10月下旬～16年1月入札、卸売・小売価格は、15年11月～16年2月の対前年同月増減率の単純平均値である。

3) 卸売・小売価格は、取扱商品の価格であり、自主流通米のみの価格ではない。

(6) 販売に関する特徴的な動き

販売事業者のブレンド米への取組が更に充実
 外食事業者が作柄状況に応じた仕入内容の変更を実施

(ア) 販売事業者の取組

平成15年産米の作柄不良の影響を受け、産地品種銘柄別の供給の偏りを緩和し、価格の上昇を抑制するものとして、販売事業者によるブレンド米への取組が広がっています。

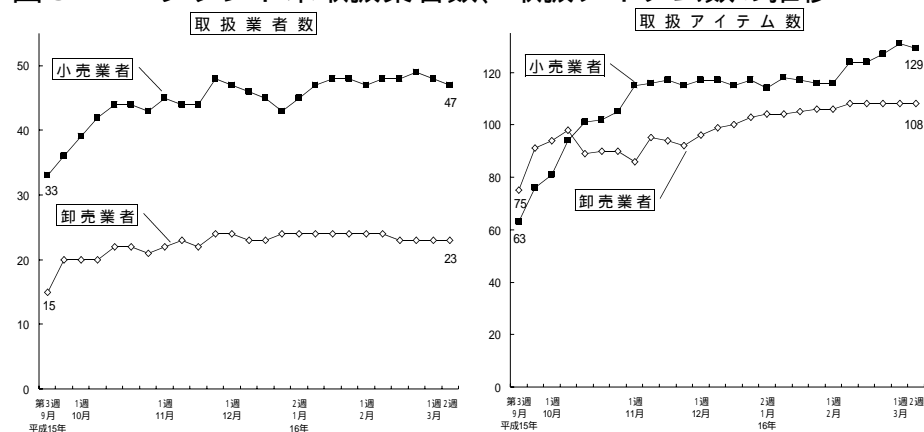
平成15年9月3週から16年3月2週までの間の卸売・小売業者のブレンド米の取扱業者数をみると、ともに出来秋当初の増加傾向から、横ばいに転じて以降、安定して推移しており、消費者向けのブレンド米の取扱いがある程度定着していることがうかがわれます(図3-22)。

また、同時期における卸売・小売業者のブレンド米の取扱アイテム数をみると、当初のような急激な増減はなく、徐々に増加しながら推移しています。卸売・小売業者が消費者のニーズに合わせた多種多様なブレンド米の販売が強化されていることがうかがわれます。

また、小売業者のブレンド米に対する取組を東日本、西日本別に見ると、平成15年9月から16年3月にかけて、当初は取組が比較的少なかった東日本においても、ブレンド米を取り扱う業者数が大きく増加しています(図3-23)。

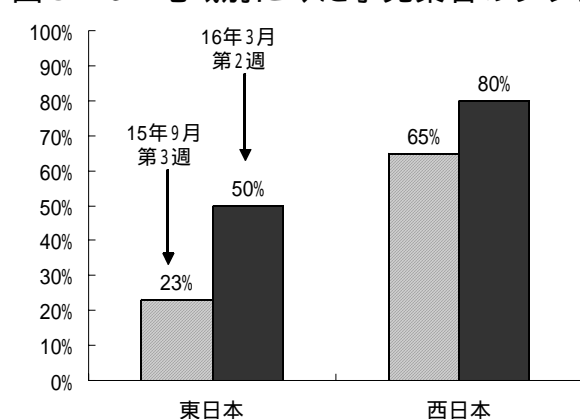
このことから、販売事業者によるブレンド米への取組が全国的に広がっており、一般消費者へ浸透し始めていることがうかがわれます。

図3-22 ブレンド米取扱業者数、取扱アイテム数の推移



資料：農林水産省「米麦等の取引動向調査(週報)」
 注：調査客体は、北海道、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫及び福岡の7都道府県の主に県庁所在地の業者(全99業者(卸売業者29、小売業者70))とした。

図3-23 地域別にみた小売業者のブレンド米取扱割合の推移

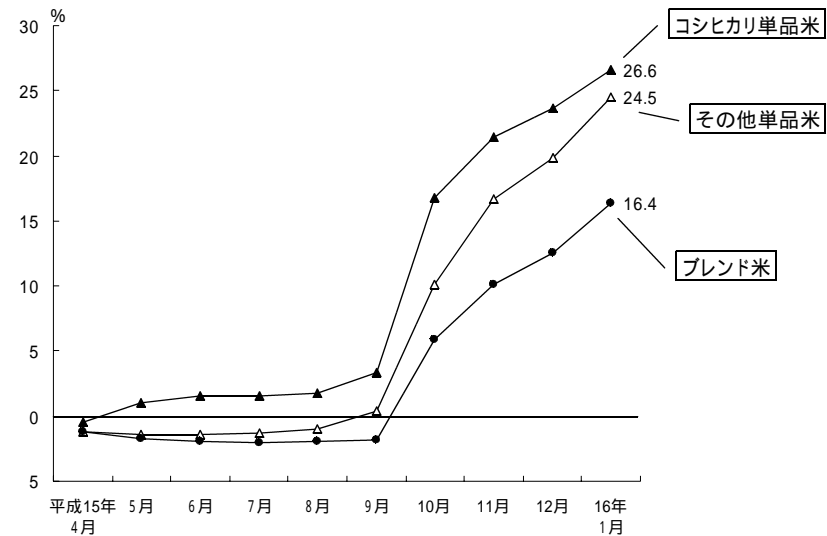


資料：農林水産省「米麦等の取引動向調査(週報)」
 注：1) 図3-22の注と同じ
 2) 各調査客体に占めるブレンド米取扱業者数の割合である。
 3) 「東日本」は、北海道、東京、神奈川の平均、「西日本」は愛知、大阪、兵庫、福岡の平均とした。

小売業者におけるブレンド米の販売価格については、原料仕入価格の上昇に伴い、平成15年10月以降、単品米同様値上り傾向にあります。ただし、上昇率は単品米を大きく下回っています(図3-24)。

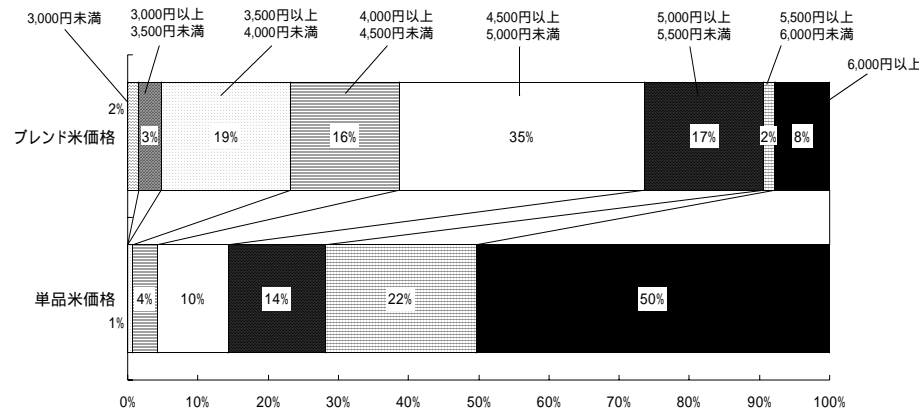
また、平成16年3月第2週における小売業者における米の販売価格帯別アイテム数の割合を見ると、ブレンド米では、5,000円/10kg未満のアイテム数が全体の75%を占めているのに対して、単品米ではわずか15%となっており、ブレンド米では単品米に比べて大幅に安くなっています(図3-25)。

図3-24 ブレンド米、単品米別にみた米類の消費者価格指数の増減率(対前年同月比)



資料：総務省「消費者物価指数」(平成12年基準)

図3-25 小売業者における米の販売価格帯別アイテム数の割合(平成16年3月第2週)



資料：農林水産省「米麦等の取引動向調査(週報)」

- 注：1) 図3-22の注と同じ。
 2) 精米10キログラム当たりの販売価格(包装、消費税込み)である。
 3) ラウンドの関係で、合計と内訳が一致しない場合がある。

(イ) 外食事業者等の取組

外食事業者における米の仕入価格については、平成15年産米の作柄状況を背景に、出来秋以降、87%の業者において上昇しています(図3-26)。

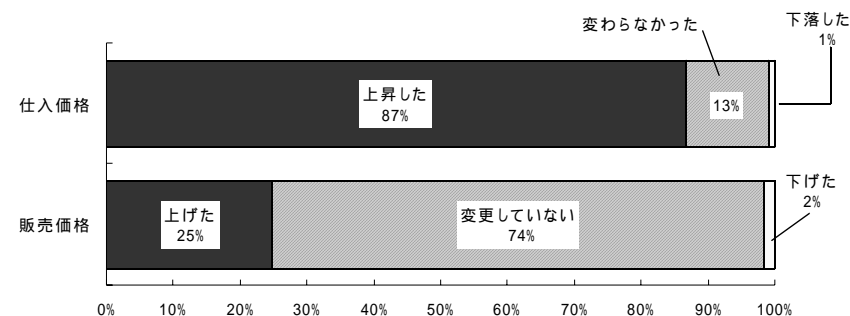
これに対して、販売価格について値上げを実施した業者は、25%に留まっており、74%の業者が販売価格を据え置いています。

外食事業者が、厳しい価格競争の環境の中で、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁することが難しい状況がうかがわれます。

このように仕入価格が上昇したことを受け、外食事業者では、仕入価格の高騰を抑制するために、約6割の業者が、従来の仕入内容を変更しています(図3-27)。

変更内容については、ブレンド米のブレンド構成を変更した業者が最も多く、その他、単品米からブレンド米への切替えや、単品米の銘柄変更などの対応が行われています。

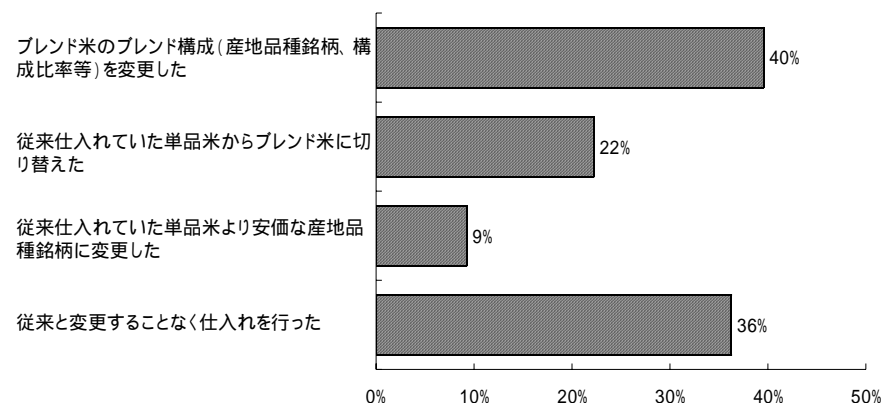
図3-26 外食事業者の米の仕入・販売価格の変化



資料：「外食事業者等に対する米の仕入動向アンケート結果」(平成15年12月～16年1月調査)

- 注：1) 外食事業者等(外食事業者、中食製造業者)397業者を対象とするアンケート調査である。調査客体は、全国展開を行っている外食事業者等及び各都道府県において米年間使用数量が多い外食事業者等を対象とした。
- 2) 販売価格については、今後の予定も含めた値となっている。
- 3) ラウンドの関係で、合計と内訳は一致しない場合がある。

図3-27 外食事業者の米の仕入内容の変化



資料：「外食事業者等に対する米の仕入動向アンケート結果」(平成15年12月～16年1月調査)

- 注：1) 図3-26の注1)と同じ。
- 2) 複数回答の調査結果である。

(コラム)ブレンド米に対する販売事業者の積極的な取組事例

昨今、注目を集めている販売事業者によるブレンド米販売ですが、その取組内容は多岐に渡っています。

例えば、千葉県船橋市の小売店Aでは、ブレンド米の開発や販売に顧客のニーズを反映させるために、毎年顧客数名にパネルナーになってもらい、ブレンド米の試食会を実施しています。また、食味などに応じて、様々な価格の商品をとり揃え、好評を得ています。

京都市の小売店Bでは、幅広い顧客を獲得するため、ホームページ上に「ブレンド米webショップ」を開設しています。販売に際して「あなた好みのブレンド米を作る」ことをテーマに、顧客のお米の好みや食事スタイルをアンケート形式で把握することで、「オーダーメイド」のブレンド米を提供しています。

大阪市の小売店Cでは、「ブレンド」ではなく「合わせ」と表現される高いブレンド技術を背景に、自社ブレンドを中心に販売を行っており、徹底したオリジナル性を顧客にアピールしています。このお店では、ブレンド米の原料内容を明示した上で、6項目の食味内容の掲示を行っています。中でも、有機栽培米だけで作られたブレンド米は、数量限定品であり、米袋にシリアルナンバーまで印字する徹底ぶりを見せています。

このように各地でみられるブレンド米への取組を、更に後押しするため、お米マイスターの認定制度を実施している日米連(米穀小売業者の全国団体)は、一般公募していたブレンド米の統一ブランド名を、平成16年3月に「お米マイスターのわざヒカリ」と決定し、厳選された良食味のブレンド米を推進していくこととしています。今後、お米マイスターが腕を振るったブレンド米の認知度が消費者の間で一層高まることが期待されます。

(コラム)平成15年産米の作柄を受けた販売事業者の対応事例

ブレンド米に限らず、平成15年産米の作柄状況を受けて、販売事業者では様々な対応を実施してきました。

例えば、石川県小松市の量販店Dでは、米の価格の高騰により、顧客の米離れが起きないように、クーポンセール等の様々な取組を始めました。

また、ブレンド米の取り扱いを始めつつも、顧客に定着している単品精米の充実した品揃えを行うという従来からのスタンスを守るため、今年から新たに流通し始めた地元石川県産の「石川43号(ゆめみづほ)」を単品精米で販売し始めるなど、値頃感のある商品を拡充し、コシヒカリが高くて手が出ないという客層に対しても、様々な選択肢を提供しています。

以上のような取組の結果、同店では、米の販売について前年を上回る売上高を達成しています。

4 米の輸入に関する直近の動向

ミニマム・アクセス米は、平成14年10月末の持越在庫95万トン、14年度の輸入77万トンに対して、需要等は45万トン。15年10月末の在庫は127万トン

ミニマム・アクセス米については、「米のミニマム・アクセス導入に伴う転作の強化は行わない」との閣議了解を踏まえ、国産米では対応し難い低価格な加工用需要を中心として販売等を行っているところです。

また、国内で販売残となり在庫しているミニマム・アクセス米については、国際機関、食糧不足国からの援助要請に応じて食糧援助用に供給する等適切に活用していくこととしています。

平成15米穀年度（14年11月～15年10月）においては、14年10月末の持越在庫が95万トンあるほか、ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づき14年度に輸入されたミニマム・アクセス米77万トンの輸入が行われました（図4-1）。

一方、需要等は、上記の運営方針の下で供給を行った結果、加工用需要等を中心に45万トンとなっています。

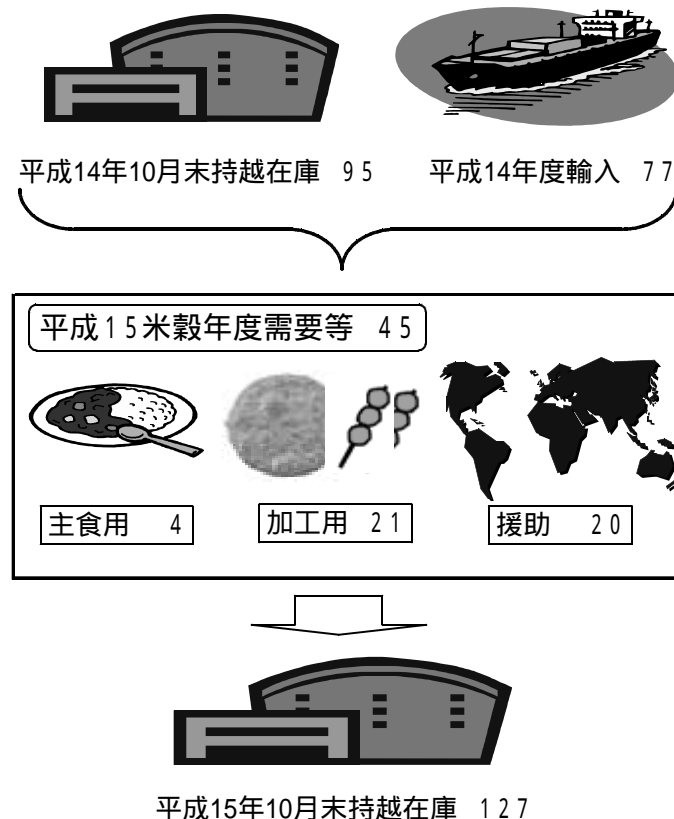
このため、ミニマム・アクセス米の15年10月末持越在庫は127万トンと、前年同期に比べ30万トン程度増加しています。

平成16米穀年度においては、15年度に輸入されたミニマム・アクセス米77万トンを中心に供給することとしています。

その供給に当たっては、引き続き、上記運営方針の下で、国産米の需給にはできるだけ影響を与えないよう措置していくこととしています。

なお、近年、ミニマム・アクセス米在庫が増嵩していることから、現行の加工用途を中心に国産米では対応し難い原料米ニーズを的確に把握し、販売に努めるとともに、ミニマム・アクセス米に係る管理経費等の縮減に努めていくこととします。

図4-1 直近のミニマム・アクセス米の需要動向
(単位：万トン)



資料：農林水産省調べ

注：各年10月末持越在庫は、飼料用備蓄、援助用備蓄等を含めたものである。

第2 需給見通し編

直近の需給動向を踏まえた平成15年産米に係る需給見通し

1 11月基本指針策定時における需給見通し

平成15年11月に策定した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」(以下「基本指針」という。)においては、以下の要素に基づき15年産米に係る需給見通しを策定したところである。

- (1) 平成15年6月末在庫量 262万トン
各農政事務所等が第1種・2種登録出荷取扱業者及び自主流通法人を対象に実施した在庫調査結果による。
- (2) 平成15年産米生産量 763万トン
15年10月15日現在の水稻の予想収穫量 778万トンから加工用米生産見込量15万トンを差し引いて算出。
- (3) 需要量 870万トン
平成3～14年産米の全国の需要量を基に、2年移動平均の平均減少量により算出。
- (4) 平成15年産政府買入数量 10万トン
15年3月に策定した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本計画」における買入数量(10～15万トン)及び15年産米の作柄状況を踏まえ、備蓄の円滑な運営に資する観点から10万トンと設定。
- (5) 政府米需要量 84万トン
平成15年7月～10月までの販売実績に15年11月～16年6月の販売見込みを基に算出。

平成15年産米に係る主食用等の需給見通し(15年11月策定)

(単位:万トン)

		全体需給	うち政府米
平成15年6月末在庫量	A	262	163
平成15年産米生産量	B	763	10
供給量計	C = A + B	1,025	173
需要量	D	870	84
平成16年6月末在庫量	E = C - D	155	89

平成3～14年産米の全国需要量を基に、2年移動平均の平均減少量による需要量の算出方法

$$\text{需要量} = \text{期首在庫(当年6月末)} + \text{生産量} - \text{期末在庫(翌年6月末)}$$

(単位:千トン)

年産	需要量	2年移動平均	対前年差	対前年差平均	
3年産	10,041			131	
4年産	10,244	10,143			
5年産	8,782	9,513	630		
6年産	9,406	9,094	419		
7年産	9,407	9,407	313		
8年産	9,438	9,423	16		
9年産	9,129	9,284	139		
10年産	9,073	9,101	183		
11年産	8,859	8,966	135		
12年産	9,115	8,987	21		
13年産	8,721	8,918	69		
14年産	8,947	8,834	84		
15年産	8,703	(= 8,834 - 131)			870万トン
16年産	8,572	(= 8,834 - 131 × 2)			857万トン

2 直近の需給動向を踏まえた今後の見通し

(1) 平成15年11月の基本指針策定後、自主流通米、政府備蓄米に対する卸売業者等の購入意欲が予想を超えて高まっていることから、15年産米に係る主食用等の需給見通しを以下の点を踏まえ、右表のとおり改める。

15年産米生産量 764万トン

15年11月の基本指針では、15年10月15日現在の水稻の予想収穫量 778万トンから加工用米生産見込量15万トンを差し引いて主食用等の生産量を 763万トンと算出。

その後、生産者団体において加工用米の需給状況を勘案し、1万トンを主食用へ供給することに伴い見直し。

政府米需要量 100万トン

15年7月～16年3月までの販売状況を基に15年7月～16年6月までの販売を見通し。

(2) なお、需要量については、経済動向等とも密接に関連することから、的確に予測し難い状況となっており、今後の価格動向によっては、流通段階において相当量の在庫の取り崩しが生じる可能性があることに留意する必要がある。

特に、政府米については、平成15年11月の基本指針で見込んだ需要量を大幅に上回った仮需が発生しており、卸売業者の流通在庫についても16年2月末現在で76万トン（対前年43万トン増）に達している。

このため、今後の米の消費動向、自主流通米の需給・価格動向及び16年産米の作柄状況等によっては、自主流通米、政府米とも相当量が流通在庫等となることも懸念される。

(3) 平成16年6月末の在庫量は、上記在庫量と需要量の見通しを基に算出した見通しであり、今後の販売状況等によって変動する可能性があるが、当面、主食用等米穀の安定供給に支障はないものと考えられる。

平成15年産米に係る主食用等の需給見通し（16年3月改定）

（単位：万トン）

		全体需給	
			うち政府米
平成15年6月末在庫量	A	262	163
平成15年産米生産量	B	764	10
供給量計	C = A + B	1,026	173
需要量	D	870	100
平成16年6月末在庫量	E = C - D	156	73

○ 卸売業者の月末在庫

（単位：千トン）

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	平均
14R Y	328	298	280	272	316	344	319	293	274	248	250	364	299
対前年	20	22	22	26	54	79	21	79	62	8	16	32	12
15R Y	389	378	347	328	338	311	305	349	301	268	271	532	343
対前年	61	80	67	56	22	33	14	56	27	20	21	168	44
16R Y	638	821	809	761									
対前年	249	443	462	433									

資料：農林水産省調べ

第3 国の方針編

基本的考え方

「米政策改革大綱」(以下「大綱」という。)及び大綱に示された米政策改革を進めるため改正された「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」(以下「改正食糧法」という。)に基づき、消費者重視・市場重視の考え方に立って、需要に即応した米づくりの推進を通じて水田農業経営の安定と発展を図る。

このため、以下のように需給調整対策、流通制度、関連施策等の改革を整合性をもって実行する。

1 米づくりの本来あるべき姿と実現の道すじ

できるだけ早期に望ましい生産構造を実現するため、「地域水田農業ビジョン」の策定とそれに基づく多様な取組を行い、平成22年までに農業構造の展望と米づくりの本来あるべき姿の実現を目指す。

このため、国及び地方公共団体は、必要な助言及び指導を行う。

需給調整システムについて、遅くとも平成20年度に農業者・農業者団体が主役となるシステムを国と連携して構築する。この間、農業者・農業者団体の自主的・主体的な取組の強化を目指すものとし、18年度に移行への条件整備等の状況を検証し、可能であればその時点で判断する。

集荷・流通分野の改革は、消費と生産の距離を縮め、市場の変化に迅速に対応できるよう、関係者と協議の上、可能なものから早期に実施

する。

2 平成16年度からの当面の需給調整のあり方

国は、「食料・農業・農村政策審議会」の助言を得て、透明な手続きの下に、需給情報を「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」(以下「基本指針」という。)として策定・公表する。

需給調整については、生産数量を調整する方式へ転換する。生産数量の目標は、需要に応じた米づくりの推進、国民に対する安定供給を確保する観点から、在庫水準、作柄の状況等を勘案し、客観的な需要予測を基礎に設定する。

生産目標数量は、行政及び農業者団体の両ルートで配分する。

農業者に対しては、併せて作付目標面積を配分し、確認は面積により行う。この場合、面積に換算する際の単収については、客観的指標となり得るデータを活用し、地域ごとの実態に合わせて設定する。

助成措置については、地域の多様な取組に応えられる新たな発想の下に、全国一律の方式から転換し、対策期間中安定した一定の交付額により地域の特色ある水田農業の実現のための対策と米価下落の一定部分を補てんする対策を柔軟に実施する「水田農業構造改革交付金」を創設する。

豊作による過剰米については、「集荷円滑化対策」を創設し、短期融資の仕組みを活用して、区

分出荷を促し、農業者団体による主体的な販売環境整備を行いつつ、融資の返済が米の引渡しでなされた場合は、その需要開拓に結びつける。

3 流通制度の改革

創意工夫ある米産業の発展と需要に応じた米づくりの促進の観点に立ち、従来の計画流通制度を廃止し、民間事業者による安定供給に資する自主的な取組に対して債務保証等の支援を行うことにより、より消費者ニーズに応じた米が安定的に供給される体制を構築する。

このため、このような支援を行う「米穀安定供給確保支援機構」(以下「米穀機構」という。)を農林水産大臣が指定する。

新たな安定供給体制の下で、様々な需要に即した多様な取引の実態を反映した価格形成を図る。

このため、米穀価格形成センターについて、新規参入を含めた市場の開放性の確保等を通じ、公正・中立な魅力ある取引の場となるよう整備する。

米表示に対する消費者の信頼性を確保するため、表示の適正化に向けた取組を強化し、不適正な事例については厳正に対処するとともに、トレーサビリティシステムの導入等を支援する。

米の消費拡大については、米を主食とする日本型食生活の復権を図るため、食生活指針の普及、食育の推進等について、教育機関、医療機関、研究機関等との連携を図りながら、テレビ

等の広報媒体も有効に活用しつつ、広範な国民運動を展開する。

さらに、売れる米づくり等の推進に向け、生産者団体の主体的な取組と一体となった消費拡大運動を展開する。

政府備蓄について、100万トン程度を適正備蓄水準として、入札を基本とする買入れ・販売を実施する。

主食であり、自給可能な農産物である米について、不測時に国の供給計画の策定等を通じ、流通業者や生産者による買占め、売惜しみの防止を図る。このため、流通の実態を平常時から把握し得る体制を整備するため流通業者の届出制等を導入するとともに、危機管理体制の実効を確保するため、行政組織の行動マニュアルを策定する。

4 経営政策・構造政策の構築

水田農業の構造改革を加速化する観点から、改めて集落段階での話し合いと合意形成を行い、地域自らが作成する「地域水田農業ビジョン」において、地域の担い手を明確化する。

その際、「認定農業者制度の運用改善のためのガイドラインについて」(平成15年6月27日付け15経営第1537号経営局長通知)等に基づく認定農業者制度の適切な運用を通じ、地域において水田営農を中心的に担い、また、地域の合意に基づき担い手として明確化された農業者が認定農業者として認定されるようにする。

また、水田農業の特質を踏まえ、経営主体としての実体を有し、将来的には効率的かつ安定的な経営体に発展することが期待される集落営農の組織化と法人化を進める。なお、集落営農の組織化の推進に当たっては、認定農業者等の個別経営体との土地利用調整に無用な混乱が生じないように十分な調整を行うこととする。

米価下落による稲作収入の減少の影響が大きい、一定規模以上の水田経営を行っている担い手を対象に、すべての生産調整実施者を対象として講じられる「稲作所得基盤確保対策」に上乘せし、稲作収入の安定を図る対策として、「担い手経営安定対策」を講じる。

担い手のニーズを踏まえた農地の利用集積促進が可能となるような制度面の措置を一層推進する。また、水田整備の事業体系を利用集積、経営体の育成等成果重視の整備へと転換したところであり、今後、これらにより農地利用集積の確実な進展を図る。

5 水田利用のあり方・農業生産対策の展開

水田利活用の促進と多面的機能の発揮等のため、効率的かつ安定的な経営体の確立、田畑輪換を中心とした持続的輪作体系に基づく水田営農、水利用事情等を踏まえた畑地化を推進する。これに際し、多収性品種や新形質米の開発普及、低コスト化農法の定着、耕畜連携のための条件整備、輸送の効率化等の体制整備を図りつつ、飼料用稲や加工用米の定着・拡大に向けた取組

を推進する。

生産の相当部分を担い手が担う構造への転換を促進しながら、需要に即した高品質の麦・大豆生産に取り組む生産者に対する支援策及び耕種農家と畜産農家の連携による水田を活用した飼料作物生産に取り組む生産者に対する支援策を実施する。

当面の方針

平成16年度においては、大綱及び改正食糧法の具体化及び施行を円滑に行うため、各種対策の整備とそのための予算措置を講じることとしたところである。

また、今後の米穀の安定供給については、可能な限り客観的な指標に基づく需要見通しを策定するとともに、これに基づき、米の需要に応じた生産の推進及び政府が行う備蓄の機動的な運営等により、国民に対する安定供給を確保する。

特に、15年産米の作柄不良や出回りの遅れから、自主流通米や政府備蓄米に対する卸売業者等の購入意欲が高まったことから、15年8月以降、販売量が大幅に増加したが、15年産米の生産の減少を十分補えるだけの政府備蓄米を保有していたこと、また、16年6月末の在庫量は73万トンと見込まれることから、16年の端境期までの間の国民に対する米の安定供給に支障はない。

1 米政策改革の着実な推進

(1) 平成16年産米の生産目標数量等

平成16年産米の生産目標数量については、15年8月に策定した基本指針において、15年産米が平年作であることを前提として2年間で自主流通米の過剰在庫の解消が図られるよう、838万トンと設定した。

しかし、15年産米が作況90となり、生産量が減少することから、当初計画通りに16年産米の生産が行われた場合、適正備蓄水準を大幅に下回ると見込まれるため、昨年11月に策定した基本指針において、16年産米の生産目標数量については、16年産米の需要見通しと同水準の857万トンと設定した。

(2) 都道府県別生産目標数量

平成16年産米の都道府県別生産目標数量については、大綱の基本的考え方に即し、各都道府県産米の需要実績を基に算定した需要見込みを基礎に、「食料・農業・農村政策審議会」の助言の下、国及び全中が協議の上決定した。

この都道府県別生産目標数量については、行政及び農業者団体の両ルートで配分されるが、都道府県、市町村の各段階の第三者機能的な組織の検討・助言の下、都道府県段階から市町村段階への配分はおおむね12月中に行われた。また、市町村段階から農業者には、生産目標数量と併せて、作付目標面積の配分が行われているところである。

さらに、16年度からは、農業者・農業者団体の自主的・主体的需給調整の方針として、生産出荷

団体等が「地域水田農業ビジョン」と一体的に、「米穀の生産調整に関する方針」(以下「生産調整方針」という。)を作成し、これを国が認定した上で、農業者はこれに従って生産を行い、生産目標数量を達成する仕組みを設けたところである。

この生産調整方針の作成及びその適切な運用について、国は、生産出荷団体等に対し必要な助言及び指導に努める。

(3) 産地づくり対策

地域の多様な取組に心えられるよう、これまでの全国一律の要件、単価による米の生産調整の助成体系から転換し、地域自らの発想の下に策定する「地域水田農業ビジョン」の実現を支援するため、以下の対策を講じる。

水田農業構造改革交付金

対策期間中安定した一定額を国が都道府県水田農業推進協議会に交付し、交付金の使途・水準は地域が決定する仕組みにより、水田農業の構造改革と消費者の期待に応える産地の育成を支援する。

重点作物特別対策

担い手による需要に即した高品質の麦・大豆等の生産を支援するとともに、耕種農家と畜産農家の連携による水田を活用した飼料作物の生産を支援する。

(4) 稲作所得基盤確保対策

需要に応じた米づくりを行うための農業者、農業者団体による自主的な努力を支援するため、生産調整のメリット対策として、米価下落の一定部

分を補てんすることにより、米づくりの基盤を確保する。

(5) 担い手経営安定対策

水田営農の担い手の経営の安定を図るとともに、立ち遅れている水田農業の構造改革の加速化に資するべく、一定の要件を満たす担い手を対象として、「稲作所得基盤確保対策」に上乘せした米価下落の影響緩和対策を措置する。

(6) 集荷円滑化対策

豊作による過剰米に対して、その販売可能価格に見合った短期融資を行い、需要に応じた米づくりを促進するとともに、出来秋の段階で市場から隔離することにより米価の下落を防止する。この短期融資に必要な原資の造成を行う「米穀機構」に対して、国からの無利子貸付けを実施する。

(7) 需給適正化対策

政府備蓄米のうち、保管期間の長期化により、主食用として販売することが適当ではないと判断される平成8・9年産米の一部については、政府備蓄米に対する消費者の不安感を緊急に解消する観点から、食糧援助用備蓄米と差し替えを行った上で、主食用以外の用途（飼料用等）に処理する。

(8) 関連対策

米政策改革を促進し、早期に農業構造の展望と米づくりの本来あるべき姿の実現を図る観点から、「地域水田農業ビジョン」の実現に向けた関係団体等の有機的連携の下に、担い手に対する農用地の利用集積、多様な水田農業を支える基盤づくり等を促進するため、農業関連施策全体を総合的に

見直し、以下の関連対策を実施する。

ア 構造政策（農地流動化対策、法人化支援、関連施設等の緊急整備等）

イ 売れる米づくりの推進等（米の消費拡大、輸出の促進、トレーサビリティシステムの導入、食育の推進等）

ウ 計画的な米の流通支援（県間流通銘柄の計画的かつ安定的な販売に対する金利や保管料助成）

エ 多様な水田農業を支える水利施設維持管理対策、基盤づくり等（水利施設維持管理対策、畑地転換、土づくり対策、農地・水利情報整備等）

オ 水田の総合的利活用に向けた生産・技術対策（生産対策、研究開発、残留農薬分析体制の整備）

カ バイオマス対策の推進

2 平成15年産米の作柄状況を踏まえた安定供給確保のための取組

平成15年産米については、生産量が減少したことにより、全体では需要に見合った十分な供給量が確保できるものの、一部産地銘柄については品薄感があることから、米の適正な流通を確保し、消費者の信頼を図るため、

政府備蓄米の機動的な販売

自主流通米の調整保管の解除

売惜しみ、便乗値上げ防止のための監視体制の強化

米の作柄と需給に関する情報提供の充実

等の措置を講じており、今後とも状況に応じた適

切な対応を実施する。

また、もち米については、

14年産米に比べ作付面積が減少したこと

作柄が前年を下回ったこと

15年10月末の持越在庫がないこと

から、自主流通米の集荷が低水準と見込まれ、実需者に対する安定供給の確保が懸念される状況となった。

このため、16米穀年度のもち米の安定供給を図るため、自主流通もち米の円滑な集荷促進のための対策が講じられている。これに加え、政府は、15会計年度において、全体ミニマム・アクセス量の枠内で、一般輸入・SBS輸入合わせて約8万玄米トンのもち米を輸入することを決定したところである。

今後も、需給動向等を見極め、必要に応じて機動的なミニマム・アクセス輸入を行う等、もち米の供給に支障を生じないよう適切に対応していく。

3 安定供給の確保に対する支援

平成16年3月末に計画流通制度が廃止されることを受け、米穀の安定供給の確保を支援することを目的とした「米穀機構」を、同年4月に指定する。

同機構については、将来にわたって米産業の発展と安定供給の確保が図られるよう、改正食糧法に基づき、

集荷円滑化対策

安定供給に資する取引への債務保証

を行うことに加え、今後予想される米流通の変化に対応するため、従来、自主流通法人が実施してきた、

生産者への情報提供業務

安定供給に資する米取引に対する助成に関する業務

等を行う。そのほか、米の安定供給に関連する業務を幅広く行うこととしている。

4 適正な指標価格の形成の推進

様々な需要に即した多様な取引の実態を反映した価格が形成され、それが他の取引の目安ともなるような公正・中立的な取引の場を育成するため、「(財)自主流通米価格形成センター」の名称を「(財)全国米穀取引・価格形成センター」(以下「コメ価格センター」という。)とし、改正食糧法に基づく「米穀価格形成センター」として、16年4月に指定する。コメ価格センターは、次のとおり、価格形成の場として充実させるとともに、多様な取引を行う場として整備する。

一定の資力信用等を有する者であれば、生産者、出荷事業者、販売事業者等多様な取引関係者の取引参加を可能とする。

年間を通じて安定的な相場により定期的に実施される基本取引、インターネット等を用いて日常的に実施される日常的取引等の売買取引を実施する。

義務相場制を廃止する一方、自主的なルールとして、売り手が「コメ価格センター」に提出する

年間相場計画により計画的な取引を可能とする。

不公正な取引事例の周知、基本取引実施当日以外の定期的な取引監視委員会の実施等により取引の公正性を確保する。

新たな取引参加者が「コメ価格センター」を利用しやすくなるよう、これまでの代金決済機関に加え、「コメ価格センター」自らも代金決済事務を実施する。

備蓄の運営方針

1 備蓄の現状

平成15年6月末の政府備蓄量は163万トンと、適正備蓄水準を大幅に上回ったものの、平成15年産米の収穫の遅れや生産量の減少から、8月以降、政府備蓄米に対する卸売業者等の購入意欲が高まったことから、16年6月末在庫は73万トンとなると見込まれる。また、12年産米以降についてはほぼ契約済みとなっているため、今後は9～11年産米が販売の主体となっている。

他方、卸売業者の手持在庫が例年に比べ大幅に増加（16年2月末76万トン：前年同月に比べ43万トンの増）している状況にある。

2 備蓄運営の基本方針

国が行う備蓄運営については、平成13年12月に取りまとめられた「備蓄運営研究会報告」に基づき、適正備蓄水準を100万トン程度とするとともに、

年間50万トンずつの回転備蓄方式としている。

しかしながら、これまでの随意契約（相対取引）による政府米の販売では、価格水準が変化する市場実態に適時に対応し難く、また、政府買入れは、生産者からの売渡し申込みを前提として都道府県別に買入れを行っていたため、市場シグナルとは無関係に産地銘柄を買い入れる結果となるとともに、買入れ後、完売するまでの期間が長期化し、年産構成が偏る等、この売買方式が円滑な備蓄運営を図る上で阻害要因となっていた。

このため、今後は、入札方式を基本とした政府米の買入れ・販売を実施し、備蓄米として売れる銘柄を買い入れ、市場実勢価格で販売することにより、年産構成を適正化し、安定的かつ効率的な備蓄運営を図ることとする。

米穀の輸入数量及びその種類別数量に関する事項

1 平成15会計年度の輸入状況

我が国は、平成7年度からウルグアイ・ラウンド農業合意に基づくミニマム・アクセス米の輸入を実施している。

15会計年度も、15年3月31日に策定・公表した「米穀の需給及び価格の安定に関する基本計画」第5に基づき、77万玄米トン（うちSBS輸入10万トン）の輸入を実施すべく、順次入札を行ってきた。

15会計年度の特徴としては、

もち米を一般輸入・S B S 輸入合わせて例年の約2倍に当たる約8万玄米トン輸入し、もち米の安定供給を図ったこと

14会計年度に当初予定の約半分の5万トンの落札に止まったS B S 輸入について、2年振りに予定数量の10万トン全量が落札されたことがあげられる。

2 平成16会計年度の輸入方針

(1) 国別・種類別輸入方針

平成15会計年度には、ミニマム・アクセス量の枠内で国内需給の状況を見極め弾力的な輸入を行ってきたが、16会計年度においても、引き続き、国内の需要動向を踏まえ、通年安定的な販売操作が可能となるよう配慮しつつ、輸出国の輸出余力、国際相場等を勘案しながら適切に輸入を実施する。

(2) 輸入数量

16会計年度の輸入数量については、新たなW T O 農業交渉において新たな合意が出来るまではアクセス数量は12年度の水準が維持されることから、15会計年度と同数の77万玄米トンとする。

S B S 輸入についても、年4回程度入札を行い、予定数量を10万トンとする。

参考 動向編参考統計表

参考 動向編参考統計表

1	米の1人1ヵ月当たりの消費量の推移.....	55
2	米の1人1ヵ月当たりの支出金額の推移.....	55
3	平成15年産水稻の収穫量（都道府県別）.....	56
4	平成15年産水稻の産地品種銘柄別作柄.....	57
5	平成15年産水稻の品種別収穫量	58
6	主要な産地品種銘柄別の1等米比率.....	59
7	平成15年産計画外流通米の有償・無償譲渡数量.....	60
8	平成15年産自主流通米の主要産地品種銘柄別の 販売進捗.....	61
9	平成15年産米の都道府県別政府買入数量.....	62
10	政府米の都道府県別販売比率の推移.....	63
11	政府備蓄米（未契約）の主要産地品種銘柄別内訳.....	64
12	主要な産地品種銘柄の月別指標価格の推移.....	65
13	平成15年産米の週別卸売価格の推移.....	67
14	平成15年産米の週別小売価格の推移.....	68

1 米の1人1ヵ月当たりの消費量の推移

(単位：精米グラム、%)

	全世帯		消費世帯		生産世帯	
		対前年比		対前年比		対前年比
平成10年度	5,200	0.9	5,051	0.7	6,655	1.5
11年度	5,142	1.1	4,999	1.0	6,596	0.9
12年度	5,147	0.1	5,020	0.4	6,487	1.7
13年度	5,062	1.7	4,948	1.4	6,318	2.6
14年度	5,007	1.1	4,895	1.1	6,294	0.4
15年4月	5,041	0.8	4,936	0.6	6,305	1.7
5月	5,085	1.9	4,981	1.8	6,336	2.2
6月	4,874	0.9	4,767	0.9	6,147	0.8
7月	4,907	1.2	4,802	1.2	6,150	1.4
8月	4,921	1.1	4,811	1.2	6,239	0.7
9月	4,857	0.2	4,748	0.1	6,161	0.4
10月	5,002	0.9	4,890	1.0	6,330	1.1
11月	4,904	1.7	4,796	1.6	6,186	1.2
12月	5,135	0.6	4,998	0.7	6,771	2.0
16年1月	5,202	0.7	5,076	0.8	6,713	0.8

資料：農林水産省「米の消費動向等調査」

注：1) 年度値については、1人1ヵ月当たりの消費量の年度平均値である。

2) 平成11年度はうるう年のため、平年ベースへの補正を行っている。

2 米の1人1ヵ月当たりの支出金額の推移

(単位：円、精米グラム、%)

	支出金額		購入単価		購入数量	
		対前年比		対前年比		対前年比
平成13年度	1,000	3.2	392	2.6	2,550	0.7
14年度	960	4.0	391	0.2	2,453	3.8
15年4月	919	2.3	395	4.4	2,325	2.2
5月	876	6.9	394	2.0	2,223	4.9
6月	875	9.4	406	0.6	2,152	10.1
7月	911	0.6	387	4.9	2,353	5.8
8月	893	1.5	386	5.0	2,310	3.6
9月	1,102	3.0	400	7.3	2,755	9.7
10月	1,563	13.4	371	3.5	4,216	9.5
11月	1,134	14.7	420	8.1	2,701	6.0
12月	1,176	14.9	441	14.2	2,665	0.6
16年1月	756	17.8	467	16.1	1,621	1.5

資料：総務省「家計調査」(品目分類)を基に農林水産省で作成

注：年度値については、1人1ヵ月当たりの値の年度平均値である。

3 平成15年産水稻の収穫量（都道府県別）

単位 { 作付面積:ha
10a当たり収量・平年収量:kg
収 穫 量:t

都道府県名	作付面積	10 a 当たり 収 量	10 a 当たり 平年収量	作況 指数	収 穫 量
全 国	1,660,000	469	524	90	7,779,000
北 海 道	117,800	385	528	73	454,000
青 森	52,100	308	582	53	160,500
岩 手	58,600	387	527	73	226,800
宮 城	78,300	359	523	69	281,100
秋 田	90,400	530	573	92	479,100
山 形	69,100	547	593	92	378,000
福 島	80,200	471	532	89	377,700
茨 城	77,400	481	508	95	372,300
栃 木	65,300	485	528	92	316,700
群 馬	18,800	463	492	94	87,000
埼 玉	36,700	464	493	94	170,300
千 葉	61,300	498	521	96	305,300
東 京	214	377	394	96	807
神 奈 川	3,310	455	472	96	15,100
新 潟	116,200	512	536	96	594,900
富 山	40,400	506	528	96	204,400
石 川	26,100	493	516	96	128,700
福 井	27,800	480	516	93	133,400
山 梨	5,480	514	533	96	28,200
長 野	35,500	587	611	96	208,400
岐 阜	26,200	458	484	95	120,000
静 岡	18,400	482	521	93	88,700
愛 知	31,000	489	501	98	151,600

都道府県名	作付面積	10 a 当たり 収 量	10 a 当たり 平年収量	作況 指数	収 穫 量
三 重	32,100	452	493	92	145,100
滋 賀	34,300	478	514	93	164,000
京 都	16,400	484	505	96	79,400
大 阪	6,440	471	479	98	30,300
兵 庫	39,800	479	495	97	190,600
奈 良	9,770	489	505	97	47,800
和 歌 山	7,870	471	487	97	37,100
鳥 取	14,100	464	520	89	65,400
島 根	20,300	454	503	90	92,200
岡 山	34,700	500	523	96	173,500
広 島	27,000	503	517	97	135,800
山 口	24,000	460	505	91	110,400
徳 島	14,100	453	472	96	63,900
香 川	15,300	489	499	98	74,800
愛 媛	16,200	478	496	96	77,400
高 知	13,500	438	456	96	59,100
福 岡	40,400	483	500	97	195,100
佐 賀	28,400	500	529	95	142,000
長 崎	14,200	448	468	96	63,600
熊 本	40,800	491	511	96	200,300
大 分	26,100	485	498	97	126,600
宮 崎	20,900	464	481	96	97,000
鹿 児 島	25,900	467	476	98	121,000
沖 縄	1,050	327	311	105	3,430

資料：農林水産省「平成15年産水陸稲の収穫量」

4 平成15年産水稻の産地品種銘柄別作柄

産地品種銘柄		作況指数	産地品種銘柄		作況指数	
コシヒカリ	新潟	96	ヒノヒカリ	大分	97	
	茨城	95		福岡	97	
	栃木	91		熊本	98	
	福島	93		佐賀	96	
	千葉	96		宮崎	98	
	富山	96		岡山	100	
	三重	92		山口	96	
	長野	98		香川	99	
	石川	96		あきたこまち	秋田	92
	福井	92			岩手	71
	島根	90			山形	83
	滋賀	91			長野	86
	宮崎	93		きらら397	北海道	72
	愛知	96		キヌヒカリ	滋賀	91
	鳥取	90	はえぬき	山形	93	
	山口	88	ほしのゆめ	北海道	76	
	徳島	96	つがるロマン	青森	66	
	岐阜	94	ササニシキ	宮城	69	
	高知	96	ゆめあかり	青森	36	
	熊本	90	日本晴	滋賀	97	
	香川	97	ハナエチゼン	福井	96	
	岡山	91	夢つくし	福岡	95	
	ひとめぼれ	宮城	69	むつほまれ	青森	50
		岩手	79	ハツシモ	岐阜	98
		福島	83	ふさおとめ	千葉	94
		山形	97	アケボノ	岡山	100
山口		91	森のくまさん	熊本	97	
鳥取		87				

資料：農林水産省「平成15年産水陸稲の収穫量」

5 平成15産水稻の品種別収穫量

単位 { 作付面積:ha
10a当たり収量:kg
収穫量:t

産地品種銘柄	収穫量	10a当たり 収量	作付面積	
コシヒカリ	新潟	486,100	509	95,500
	茨城	284,100	472	60,200
	栃木	256,700	488	52,600
	福島	240,100	493	48,700
	千葉	206,800	490	42,200
	富山	173,700	505	34,400
	三重	112,100	452	24,800
	長野	149,000	601	24,800
	石川	94,500	492	19,200
	福井	89,800	470	19,100
	島根	75,200	450	16,700
	滋賀	55,800	446	12,500
	宮崎	37,000	428	8,650
	愛知	40,900	485	8,430
	鳥取	37,100	461	8,050
	山口	33,900	436	7,780
	徳島	31,000	449	6,910
	岐阜	32,300	467	6,920
	高知	30,500	452	6,750
	熊本	23,300	429	5,430
香川	24,500	466	5,260	
岡山	23,800	459	5,180	
ひとめぼれ	宮城	208,800	357	58,500
	岩手	135,900	418	32,500
	福島	87,300	457	19,100
	山形	37,400	555	6,740
	山口	24,200	458	5,280
	鳥取	20,000	468	4,270

産地品種銘柄	収穫量	10a当たり 収量	作付面積	
ヒノヒカリ	大分	100,900	490	20,600
	福岡	92,700	488	19,000
	熊本	97,100	503	19,300
	佐賀	73,600	501	14,700
	宮崎	50,900	489	10,400
	岡山	39,300	531	7,410
	山口	31,000	488	6,360
	香川	27,400	505	5,430
	あきたこまち	秋田	383,300	525
岩手		57,100	378	15,100
山形		31,000	451	6,870
長野		31,200	524	5,960
きらら397	北海道	250,000	391	64,000
キヌヒカリ	滋賀	46,500	488	9,520
はえぬき	山形	242,400	573	42,300
ほしのゆめ	北海道	114,100	399	28,600
つがるロマン	青森	88,400	386	22,900
ササニシキ	宮城	42,000	368	11,400
ゆめあかり	青森	28,400	197	14,400
日本晴	滋賀	34,000	515	6,600
ハナエチゼン	福井	31,800	510	6,230
夢つくし	福岡	61,400	465	13,200
むつほまれ	青森	39,700	308	12,900
ハツシモ	岐阜	45,100	451	10,000
ふさおとめ	千葉	45,300	516	8,770
アケボノ	岡山	34,400	542	6,340
森のくまさん	熊本	30,700	508	6,040

資料：農林水産省「平成15年産水陸稲の品種別収穫量」

6 主要な産地品種銘柄別の1等米比率(その1)

(単位：%)

産地品種銘柄		平成12年産	13年産	14年産	15年産
コシヒカリ	宮城	-	-	74	39
	山形	94	94	92	93
	福島	90	93	90	91
	茨城	86	82	43	93
	栃木	91	34	58	93
	埼玉	87	87	55	94
	千葉	86	89	58	90
	新潟	88	75	79	76
	富山	74	67	52	84
	石川	72	75	60	85
	福井	79	82	45	87
	長野	91	97	96	97
	岐阜	49	51	76	79
	愛知	80	57	34	53
	三重	70	19	26	66
	滋賀	83	69	40	81
	京都	65	40	46	71
	兵庫	84	55	79	89
	鳥取	66	28	28	53
	島根	73	60	62	80
	岡山	76	45	55	65
	広島	85	63	75	84
	山口	51	59	56	59
	徳島	73	63	76	66
	香川	29	12	11	5
	高知	48	36	17	61
	熊本	92	84	88	85
宮崎	61	60	69	79	
鹿児島	70	71	73	65	

(単位：%)

産地品種銘柄		平成12年産	13年産	14年産	15年産	
ひとめぼれ	岩手	96	96	93	94	
	宮城	82	85	90	67	
	秋田	95	91	91	94	
	山形	94	89	93	91	
	福島	87	89	89	86	
	栃木	86	62	76	87	
	千葉	86	85	81	87	
	鳥取	73	28	44	70	
	ヒノヒカリ	奈良	90	95	95	86
		岡山	76	85	85	71
広島		58	69	67	68	
山口		-	-	38	34	
香川		16	43	31	11	
福岡		62	60	47	24	
佐賀		58	73	14	20	
長崎		27	56	34	20	
熊本		57	77	51	34	
大分		63	79	75	56	
宮崎		49	73	59	45	
鹿児島		64	64	73	57	
あきたこまち		岩手	91	94	90	75
	秋田	85	87	79	85	
	山形	78	87	67	61	
	茨城	81	94	92	93	
	長野	87	91	88	84	
きらら397	北海道	96	84	77	66	
キヌヒカリ	茨城	70	75	-	84	
	埼玉	-	54	41	88	
	滋賀	68	49	36	71	
	兵庫	54	37	62	44	
ほしのゆめ	北海道	96	84	76	67	
はえぬき	山形	94	91	87	89	

資料：農林水産省調べ

注：平成12年産、13年産、14年産は翌年3月末現在、15年産は16年2月末現在の値である。

6 主要な産地品種銘柄別の1等米比率(その2)

(単位：%)

産地品種銘柄		平成12年産	13年産	14年産	15年産
むつほまれ	青森	86	75	64	25
日本晴	滋賀	83	87	82	85
	山口	29	-	-	32
ササニシキ	宮城	37	75	64	36
	秋田	59	68	-	81
	山形	51	71	69	80
つがるロマン	青森	89	92	90	72
ハナエチゼン	富山	-	-	79	77
	福井	69	79	83	82
	徳島	-	74	-	74
夢つくし	福岡	60	59	56	60
ハツシモ	岐阜	15	59	6	1
朝の光	埼玉	27	73	-	95
月の光	栃木	54	66	59	89
あいちのかおり	愛知	83	90	84	67
あきほ	北海道	96	76	-	49
初星	福島	71	-	-	45
	千葉	56	57	-	76
ゆきの精	新潟	68	64	39	42
アケボノ	岡山	33	79	77	28
ゴロピカリ	群馬	18	80	39	75
森のくまさん	熊本	46	79	32	27
ふさおとめ	千葉	91	93	95	93
かけはし	岩手	76	75	-	19
まなむすめ	宮城	74	73	81	27
ゆめあかり	青森	93	91	84	36
こしいぶき	新潟	-	-	84	77
ほほほの穂	石川	-	-	79	67
めんこいな	秋田	-	-	84	83
ナツヒカリ	高知	-	60	-	81
(参考)全国		78	75	70	73

資料：農林水産省調べ

注：平成12年産、13年産、14年産は翌年3月末現在、15年産は16年2月末現在の値である。

7 平成15年産計画外流通米の有償・無償譲渡数量

(単位：千トン)

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	1月末累計
平成15年産		118	476	925	322	214	64	2,119
	有償	71	406	813	259	153	34	1,736
	無償	47	70	111	63	61	30	383
14年産		167	543	792	324	156	84	2,066
	有償	111	450	679	254	90	52	1,635
	無償	56	93	113	71	66	32	431
15-14		49	67	133	3	58	20	53
	有償	40	44	134	5	63	18	101
	無償	9	23	1	8	5	2	48

資料：農林水産省「生産者の米穀現在高等調査」

注：1) うるち米の出回り数量である。

2) ラウンドの関係で、合計と内訳は一致しない場合がある。

8 平成15年産自主流通米の主要品種銘柄の販売進度

(単位：%)

産地	銘柄	平成15年			平成16年		平成15年 2月末まで	産地	銘柄	平成15年			平成16年		平成15年 2月末まで
		10月末まで	11月末まで	12月末まで	1月末まで	2月末まで				10月末まで	11月末まで	12月末まで	1月末まで	2月末まで	
福島	コシヒカリ	3.8	25.4	29.6	33.6	39.4	25.7	山形	はえぬき	6.5	31.6	37.9	43.6	46.6	29.9
茨城	コシヒカリ	10.7	32.8	37.6	41.3	45.3	33.1	庄内	はえぬき	6.5	27.6	32.7	35.9	41.5	35.8
栃木	コシヒカリ	13.6	33.5	37.3	40.6	44.5	31.5	岡山	ヒノヒカリ	1.3	24.4	40.6	45.3	52.1	24.8
千葉	コシヒカリ	30.7	37.7	43.4	46.7	50.4	51.9	山口	ヒノヒカリ	2.5	22.8	28.8	32.7	36.9	21.0
長野	コシヒカリ	7.4	30.6	35.1	39.6	43.7	37.3	香川	ヒノヒカリ	1.3	24.7	30.7	35.1	40.3	26.5
新潟	コシヒカリ	14.9	31.1	37.8	42.0	47.1	49.5	福岡	ヒノヒカリ	1.9	16.6	26.0	32.0	37.3	22.0
富山	コシヒカリ	11.2	28.0	32.4	36.2	40.7	42.3	佐賀	ヒノヒカリ	1.3	18.8	26.7	34.9	39.8	17.6
石川	コシヒカリ	11.6	25.1	30.7	35.2	39.2	45.7	熊本	ヒノヒカリ	4.1	13.3	17.2	19.0	20.7	30.5
岐阜	コシヒカリ	15.1	31.4	36.9	42.3	47.6	47.6	大分	ヒノヒカリ	5.6	20.5	29.2	35.3	39.9	31.0
三重	コシヒカリ	28.0	35.0	38.9	41.6	44.8	50.5	北海道	きらら397	13.1	28.4	37.3	45.6	51.9	28.4
福井	コシヒカリ	18.2	29.0	33.1	37.4	41.9	55.4	北海道	ほしのゆめ	20.4	37.5	50.7	61.1	66.4	50.2
滋賀	コシヒカリ	17.7	30.7	34.6	38.0	41.4	62.9	青森	つかろマン	4.6	26.0	29.9	33.9	37.0	32.1
鳥取	コシヒカリ	7.5	28.2	33.1	38.3	42.0	52.7	青森	むつほまれ	1.4	31.3	32.3	33.4	37.9	51.3
島根	コシヒカリ	12.8	24.0	30.1	33.6	40.0	43.3	青森	ゆめあかり	6.3	37.7	42.6	46.7	54.5	16.7
広島	コシヒカリ	12.3	18.0	28.1	29.3	32.2	48.5	宮城	ササニシキ	4.8	22.1	28.8	33.1	39.9	31.6
山口	コシヒカリ	19.7	32.1	38.1	40.8	44.8	47.8	宮城	まなむすめ	4.9	18.0	22.0	26.3	33.2	23.1
熊本	コシヒカリ	28.5	37.7	41.0	42.2	43.8	59.0	秋田	めんこいな	3.4	26.0	34.8	39.3	45.1	16.9
岩手	あきたこまち	5.6	19.4	25.4	30.8	34.8	35.0	岐阜	ハツシモ	2.1	19.2	29.5	34.8	40.0	21.3
秋田	あきたこまち	13.1	25.9	31.6	35.1	39.6	34.9	福井	ハゲエチゼン	39.4	55.7	61.5	64.8	70.9	70.1
岩手	ひとめぼれ	4.5	24.9	31.0	36.5	40.9	37.0	滋賀	キヌヒカリ	20.3	35.8	42.4	45.9	50.6	60.3
宮城	ひとめぼれ	6.7	27.4	32.8	37.2	42.4	40.4	福岡	夢つし	14.7	23.4	30.9	36.5	42.7	57.0
秋田	ひとめぼれ	6.6	12.5	18.5	21.7	27.3	20.8	熊本	森のまさん	3.9	15.7	19.6	21.5	24.7	30.5
福島	ひとめぼれ	8.8	21.1	23.7	26.0	29.6	26.5	その他銘柄(非上場銘柄含む)		20.3	32.1	41.7	46.9	51.5	43.4
庄内	ひとめぼれ	8.2	22.7	30.4	36.2	44.8	44.7	総合計		13.5	29.1	36.0	40.7	45.4	39.4
鳥取	ひとめぼれ	9.1	33.4	36.6	41.1	44.4	42.1								

資料：自主流通法人調べ

- 注：1) 12月末現在の集荷見込数量に対する販売数量の占める割合である。
 2) 「15年2月末まで」欄は、14年産の値である。
 3) ラウンドの関係で、合計と内訳は一致しない。

9 平成15年産米の都道府県別政府買入数量

	当初配分 基礎数量 (平成15年12月8日)	買入数量 (16年2月末現在)	総買入数量 に占める割合
全国	100.0	2.5	-
北海道	12.0	1.1	46.1
青森	7.2	-	-
岩手	4.2	-	-
宮城	5.1	0.5	21.2
秋田	7.7	-	-
山形	4.6	-	-
福島	1.4	-	-
茨城	4.0	-	-
栃木	4.4	-	-
群馬	2.4	-	-
埼玉	1.9	-	-
千葉	1.2	-	-
東京	0.0	-	-
神奈川	0.1	-	-
新潟	3.7	-	-
富山	2.3	0.4	18.1
石川	1.5	-	-
福井	1.0	0.0	0.4
山梨	0.2	-	-
長野	1.9	0.0	2.0
岐阜	0.8	-	-
静岡	0.2	-	-
愛知	1.6	-	-

(単位：千トン)

	当初配分 基礎数量 (平成15年12月8日)	買入数量 (16年2月末現在)	総買入数量 に占める割合
三重	1.3	-	-
滋賀	2.1	-	-
京都	0.7	-	-
大阪	0.0	-	-
兵庫	1.1	-	-
奈良	1.0	0.0	1.2
和歌山	0.1	-	-
鳥取	0.8	-	-
島根	0.6	0.0	0.6
岡山	1.5	-	-
広島	1.6	-	-
山口	2.6	-	-
徳島	0.2	0.0	0.4
香川	1.3	-	-
愛媛	0.9	-	-
高知	0.1	0.0	0.2
福岡	2.9	-	-
佐賀	3.3	-	-
長崎	0.9	-	-
熊本	3.7	0.2	9.8
大分	1.8	-	-
宮崎	1.4	-	-
鹿児島	0.9	-	-

資料：農林水産調べ

10 政府米の都道府県別販売比率の推移

(単位：千トン、%)

都道府県名	政府買入数量 (平成9、10、11、 12、13、14年産)	販売数量 (平成15年10月末まで)		販売数量 (16年2月末まで)	
		販売数量	販売比率 /	販売数量	販売比率 /
北海道	466	52	11.1	82	17.6
青森	164	22	13.3	34	20.6
岩手	102	71	69.8	82	80.5
宮城	91	50	55.3	81	88.4
秋田	194	132	68.1	156	80.6
山形	135	67	50.1	99	73.5
福島	75	52	68.7	59	78.4
茨城	79	44	56.0	59	74.2
栃木	125	53	42.7	75	60.4
群馬	38	9	24.0	16	43.4
埼玉	45	13	29.0	18	40.8
千葉	44	21	48.0	27	61.6
東京	0	0	0.0	0	0.0
神奈川	1	1	76.9	1	88.3
新潟	192	107	55.7	147	76.6
富山	62	32	50.5	46	73.4
石川	27	12	42.9	19	70.9
福井	28	13	45.2	17	62.3
山梨	3	2	87.1	3	95.8
長野	46	34	74.1	42	92.4
岐阜	16	11	68.7	14	85.5
静岡	7	3	45.8	4	57.1
愛知	34	12	35.2	17	49.3

都道府県名	政府買入数量 (平成9、10、11、 12、13、14年産)	販売数量 (平成15年10月末まで)		販売数量 (16年2月末まで)	
		販売数量	販売比率 /	販売数量	販売比率 /
三重	30	16	52.3	19	64.1
滋賀	34	11	31.6	21	63.7
京都	14	9	63.7	10	75.8
大阪	1	0	67.8	0	69.7
兵庫	20	12	60.0	15	74.4
奈良	11	8	70.0	9	78.1
和歌山	1	1	90.5	1	92.2
鳥取	14	8	59.1	11	80.4
島根	14	11	78.6	13	91.9
岡山	27	17	62.7	23	85.1
広島	34	15	45.2	19	56.5
山口	45	17	37.3	21	46.6
徳島	4	3	71.0	4	87.3
香川	21	7	33.9	12	56.8
愛媛	19	9	47.1	15	79.3
高知	2	1	68.9	1	80.0
福岡	51	25	49.7	37	73.0
佐賀	48	25	51.8	34	71.7
長崎	15	10	64.6	11	70.5
熊本	61	27	43.6	41	67.5
大分	32	17	54.0	27	84.3
宮崎	20	11	54.9	16	79.7
鹿児島	23	8	35.9	15	63.8
全国計	2513	887	35.3	1474	58.7

資料：農林水産省調べ

注：1) 販売比率は、平成9、10、11、12、13、14年産米の政府買入数量（3等米を除く）に占める、15年10月末及び16年2月末までの販売数量の割合である。

2) 販売数量は、政府買入数量から15年10月末在庫及び16年2月末在庫を差し引いて求めた値である。

3) 平成16年2月末販売数量は、速報値である。

11 政府備蓄米（未契約）の主要産地品種銘柄別内訳

（単位：万トン）

年産	8年産		9年産		10年産		11年産		
	産地品種銘柄	数量	産地品種銘柄	数量	産地品種銘柄	数量	産地品種銘柄	数量	
未 契 約 数 量 上 位 10 品 種	1	北海道 きらら397	1.7	北海道 きらら397	5.3	北海道 きらら397	6.4	北海道 きらら397	5.8
	2	栃木 月の光	1.0	青森 むつほまれ	4.0	青森 むつほまれ	1.5	青森 むつほまれ	2.6
	3	栃木 その他	0.7	北海道 あきほ	1.8	北海道 あきほ	1.1	北海道 ほしのゆめ	2.3
	4	新潟 新潟早生	0.6	北海道 ゆきひかり	1.6	北海道 ゆきまる	0.2	栃木 月の光	0.5
	5	埼玉 朝の光	0.6	栃木 月の光	1.1	埼玉 朝の光	0.2	北海道 あきほ	0.5
	6	埼玉 その他	0.4	北海道 ゆきまる	1.0	佐賀 レイハウ	0.2	群馬 ゴロピカリ	0.3
	7	北海道 ゆきひかり	0.4	新潟 新潟早生	1.0	広島 中生新千本	0.2	北海道 ゆきまる	0.3
	8	福井 ハナエチゼン	0.3	埼玉 朝の光	0.9	山口 ヤマホウシ	0.2	福島 まいひめ	0.3
	9	青森 むつほまれ	0.3	新潟 ゆきの精	0.7	岩手 たかねみのり	0.1	新潟 コシヒカリ	0.2
	10	栃木 アキニシキ	0.3	宮城 ササニシキ	0.6	福岡 つくし早生	0.1	秋田 あきたこまち	0.2

資料：農林水産省調べ

- 注：1) 平成16年2月末現在の未契約数量の値である。
 2) 未契約数量が多い上位10産地品種である。
 3) 産地品種銘柄欄の「その他」とは、産地品種銘柄米を除くものの合計である。
 4) 3等米を除く。

12 主要な産地品種銘柄の月別指標価格の推移(その1)

(単位：円 / 60kg)

産地	銘柄	15年産指標価格									
		第1回 8月8日	第2回 8月26日	第3回 9月12日	第4回 9月26日	第5回 10月10日	第6回 10月24日	第7回 11月26日	第8回 12月19日	第9回 1月27日	第10回 2月24日
北海道	きらら397					16,273	16,894	20,228	20,580	18,961	17,449
北海道	ほしのゆめ					17,423	17,767	20,411	20,990	20,029	18,343
青森	むつほまれ						15,904	18,798			
青森	つがるロマン						17,853	20,451	21,416	20,138	18,888
青森	ゆめあかり						16,722				
岩手	あきたこまち						21,123	24,333	23,911	21,226	18,750
岩手	ひとめぼれ						21,030	24,345	24,891	22,010	19,255
宮城	ササニシキ						21,170	23,554	23,825	21,026	18,639
宮城	ひとめぼれ						21,354	24,774	25,618	21,927	19,023
宮城	まなむすめ						18,779	20,849	21,076	20,114	17,993
秋田	あきたこまち					20,727	21,342	24,529	25,114	22,868	19,616
秋田	ひとめぼれ					19,602	19,815	23,156	23,682	20,668	18,110
秋田	めんこいな						18,189	20,826	21,463	19,388	17,342
山形	コシヒカリ						22,805	24,853	24,725	22,714	20,258
山形	あきたこまち					20,825	20,964	23,716	24,031	21,490	
山形	はえぬき					20,904	20,966	23,637	23,627	21,955	19,275
庄内	ササニシキ				20,979		20,473	22,733	22,585	21,056	18,737
庄内	はえぬき				20,673		20,841	23,474	23,483	21,633	19,272
庄内	ひとめぼれ				20,793		20,686	23,523	23,682	21,451	18,868
福島	コシヒカリ中通り						22,678	25,204	25,551	22,364	20,698
福島	コシヒカリ会津					23,543	23,082	25,476	25,679	22,817	20,695
福島	コシヒカリ浜通り						21,529	23,705	23,595	21,434	19,795
福島	ひとめぼれ					21,500	21,093	23,700	24,046	21,349	19,397
茨城	コシヒカリ				22,778		21,591	24,072	24,173	21,985	20,155
茨城	あきたこまち			23,974	20,233						
茨城	ゆめひたち				18,072				21,267		
栃木	コシヒカリ				21,240		21,554	24,190	24,690	22,424	19,694
栃木	月の光						15,842	18,749	19,720	18,015	16,952
千葉	コシヒカリ			24,877	23,000		21,500	23,784	23,384	22,317	19,642
千葉	ふさおとめ		19,701		18,145		18,666	20,593	22,085		
新潟	コシヒカリ一般				25,146		24,498	27,349	27,149	25,027	21,801
新潟	コシヒカリ魚沼				31,505		31,762	35,619	38,819	41,143	39,485
新潟	コシヒカリ岩船				26,126		25,161	27,701	27,644	24,891	21,715
新潟	コシヒカリ佐渡				26,195		25,092	27,658	27,640	25,105	21,983
新潟	こしいぶき			22,709	20,546		20,030	22,728	23,695	23,814	20,251

資料：自主流通米価格形成センター調べ

12 主要な産地品種銘柄の月別指標価格の推移(その2)

(単位：円 / 60kg)

産地	銘柄	15年産指標価格									
		第1回 8月8日	第2回 8月26日	第3回 9月12日	第4回 9月26日	第5回 10月10日	第6回 10月24日	第7回 11月26日	第8回 12月19日	第9回 1月27日	第10回 2月24日
富山	コシヒカリ				23,574		22,695	25,413	25,709	22,845	20,997
富山	ハナエチゼン				17,777		18,012	20,637	21,320		
石川	コシヒカリ				22,644		21,638	24,255	24,510	22,383	20,314
福井	コシヒカリ				22,716		22,763	24,587	24,472	21,717	20,203
福井	ハナエチゼン		20,119		18,008		18,193	20,605	21,227	21,061	19,522
長野	コシヒカリ				22,921		21,348	24,175	24,358	21,727	20,763
長野	あきたこまち				19,882		19,978	23,141	23,956	21,945	19,185
岐阜	コシヒカリ				21,850		21,478	23,424	23,819	21,761	18,772
岐阜	ハツシモ						17,979	20,040	21,148	20,462	17,728
愛知	コシヒカリ				21,273		20,576				
三重	コシヒカリ一般			23,761	22,099		21,788	23,503	23,783	21,987	19,907
三重	コシヒカリ伊賀				22,663		22,162	23,908	24,221	22,422	20,329
滋賀	コシヒカリ			23,858	21,773		21,548	23,714	24,441	21,718	18,517
滋賀	日本晴				16,464		16,605	19,333	20,239	19,444	17,728
滋賀	キヌヒカリ			19,482	17,469		17,735	20,421	21,337	20,213	18,065
鳥取	コシヒカリ			23,139	22,081		21,420	23,263	23,166	21,713	18,486
鳥取	ひとめぼれ			20,633	19,397		19,083	21,382	21,798	20,042	17,816
島根	コシヒカリ				22,078		21,046	23,077	23,219	21,460	19,813
岡山	アケボノ						15,941	18,759	19,939	19,906	18,542
岡山	コシヒカリ				22,131		21,235	23,348	23,095	21,480	19,528
岡山	ヒノヒカリ						17,474	20,241	21,650	21,330	19,168
山口	コシヒカリ				22,125		20,639	22,492	22,961	21,789	18,794
山口	ヒノヒカリ						17,299	20,005	21,583	20,981	18,130
山口	ひとめぼれ						17,814	20,464	21,779	20,657	17,334
徳島	コシヒカリ	19,233									
香川	ヒノヒカリ						17,437	19,949	21,330	19,999	18,276
福岡	ヒノヒカリ						17,639	20,545	21,797	21,707	18,853
福岡	夢つくし				20,402		19,622	21,102	21,857	21,865	20,043
佐賀	ヒノヒカリ						18,277	20,603	21,720	21,193	18,783
佐賀	夢しずく				18,946		18,807	20,670	21,778	21,437	18,620
熊本	コシヒカリ	19,191		23,916	22,279		21,375	23,520			19,936
熊本	ヒノヒカリ					17,903	17,937	20,556			
熊本	森のくまさん					17,794	17,945	20,386			18,912
大分	ヒノヒカリ						17,943	20,564	21,789	21,702	19,913
宮崎	ヒノヒカリ							19,755	21,345	20,938	18,994
	平均価格	19,229	19,853	23,662	22,810	19,657	20,959	23,537	23,768	22,148	19,939

資料：自主流通米価格形成センター調べ

13 平成15年産米の週別卸売価格の推移

(単位：円 / 精米10kg)

産地品種銘柄	平成15年 11月第4週	12月第1週	12月第2週	12月第3週	12月第4週	16年 1月第2週	1月第3週	1月第4週	2月第1週	2月第2週	2月第3週	2月第4週	3月第1週	3月第2週
北海道さらさら397	3,873	3,958	4,292	4,376	4,537	4,589	4,594	4,595	4,609	4,548	4,450	4,414	4,364	4,306
北海道ほしのゆめ		4,048	4,048	4,295	4,910	4,910	4,777	4,673	4,683	4,683	4,683	4,636	4,484	4,484
青森つがるロマン	4,069	4,069	4,176	4,373	4,470	4,523	4,523	4,641	4,688	4,688	4,628	4,549	4,486	4,486
青森むつほまれ	3,602	3,602	3,602	3,911	3,911	3,911	3,911	4,053	4,053	4,053	4,053	3,996	3,996	3,996
青森ゆめあかり	3,791	3,791	3,791	4,085	4,085	4,085	4,085	4,232	4,232	4,232	4,232	4,153	4,153	4,153
岩手ひとめぼれ	4,733	4,733	5,151	5,308	5,386	5,396	5,437	5,474	5,468	5,414	5,187	5,105	5,099	5,055
宮城ひとめぼれ	4,800	4,890	5,131	5,267	5,440	5,496	5,533	5,551	5,551	5,517	5,257	5,142	5,050	4,954
宮城ササニシキ	4,768	4,768	5,038	5,095	5,220	5,220	5,227	5,220	5,270	5,270	4,981	4,811	4,763	4,763
秋田あきたこまち	4,833	4,926	5,190	5,332	5,390	5,441	5,468	5,477	5,497	5,445	5,304	5,222	5,179	5,083
山形はえぬき(内陸)	4,696	4,696	5,007	5,062	5,207	5,207	5,207	5,207	5,166	5,131	4,937	4,937	4,938	4,938
福島コシヒカリ(中通り)	5,134	5,134	5,288	5,288	5,349	5,349	5,349	5,349	5,363	5,363	5,178	5,178	5,124	5,124
茨城コシヒカリ	4,832	4,832	5,117	5,264	5,295	5,296	5,296	5,332	5,334	5,289	5,181	5,029	4,986	4,911
栃木コシヒカリ	4,917	5,109	5,407	5,447	5,566	5,554	5,570	5,570	5,567	5,499	5,361	5,261	5,188	5,057
千葉コシヒカリ	5,053	5,053	5,260	5,324	5,347	5,347	5,323	5,308	5,317	5,317	5,180	5,142	5,127	5,127
千葉ふさおとめ	4,703	4,483	4,683	4,510	4,611	4,611	4,810	4,810	4,967	4,967	4,756	4,756	4,756	4,756
新潟コシヒカリ(一般)	5,609	5,703	5,905	5,981	6,008	6,027	6,032	6,045	6,035	5,966	5,841	5,765	5,721	5,600
新潟コシヒカリ(魚沼)	7,079	7,188	7,523	7,656	7,715	7,905	8,082	8,172	8,245	8,340	8,557	8,673	8,740	8,686
富山コシヒカリ	5,175	5,219	5,480	5,520	5,599	5,606	5,625	5,636	5,626	5,566	5,348	5,318	5,226	5,161
福井ハナエチゼン	4,153	4,294	4,445	4,505	4,576	4,673	4,681	4,725	4,734	4,742	4,717	4,717	4,724	4,639
長野コシヒカリ	5,276	5,250	5,380	5,380	5,432	5,478	5,481	5,481	5,585	5,585	5,481	5,457	5,359	5,359
三重コシヒカリ(一般)	4,883	4,920	5,179	5,135	5,137	5,181	5,187	5,231	5,276	5,276	5,122	5,110	5,075	5,001
滋賀キヌヒカリ	4,328	4,531	4,702	4,702	4,881	5,008	4,892	4,892	4,815	4,736	4,673	4,673	4,526	4,278
滋賀日本晴	3,861	3,861	4,186	4,186	4,375	4,503	4,503	4,503	4,503	4,471	4,458	4,458	4,458	4,223
徳島コシヒカリ	4,738	4,793	4,962	5,075	5,075	5,092	5,092	5,092	5,092	5,000	4,933	4,919	4,919	4,919
徳島ハナエチゼン														
高知コシヒカリ	4,049	4,049	4,119	4,119	4,119	4,227	4,531	4,531	4,531	4,531	4,531	4,531	4,531	
高知ナツヒカリ														
福岡ヒノヒカリ														
福岡夢つくし	4,605	4,409	4,514	4,620	4,718	4,718	4,816	4,816	4,865	4,865	4,865	4,865	4,861	4,861
佐賀コシヒカリ	5,136	5,136	5,136	5,312	5,312	5,312	5,452	5,492	5,492	5,492	5,492	5,492	5,492	5,492
熊本コシヒカリ	4,985	4,985	5,090	5,287	5,287	5,285	5,285	5,285	5,285	5,285	5,285	5,169	5,169	5,169
熊本ヒノヒカリ	4,261	4,261	4,389	4,519	4,519	4,574	4,574	4,631	4,631	4,631	4,618	4,618	4,618	4,618
熊本キヌヒカリ														
宮崎コシヒカリ														
鹿児島コシヒカリ														

資料：農林水産省「米麦等の取引動向調査(週報)」

注：全国平均価格(包装、消費税込み)である。

14 平成15年産米の週別小売価格の推移

(単位：円 / 精米10kg)

産地品種名	平成15年 11月第4週	12月第1週	12月第2週	12月第3週	12月第4週	16年 1月第2週	1月第3週	1月第4週	2月第1週	2月第2週	2月第3週	2月第4週	3月第1週	3月第2週
北海道きらら397	4,595	4,622	4,592	4,729	4,843	4,965	5,114	5,101	5,149	5,216	5,152	5,112	5,036	4,994
北海道ほしのゆめ	4,656	4,669	4,755	4,754	4,890	4,984	5,082	5,116	5,098	5,109	5,137	5,075	5,074	5,025
青森つがるロマン	4,523	4,514	4,570	4,742	5,081	5,163	5,204	5,243	5,260	5,288	5,271	5,172	5,301	5,218
青森むつほまれ														
青森ゆめあかり		4,672	4,672	4,672	4,672	4,672	4,824	4,900	4,900	4,900	4,900	4,772	4,817	4,792
岩手ひとめぼれ	5,555	5,630	5,832	6,006	6,078	6,138	6,167	6,195	6,157	6,158	6,148	6,124	6,003	5,929
宮城ひとめぼれ	5,708	5,697	5,812	5,924	6,072	6,131	6,211	6,233	6,276	6,305	6,209	6,143	6,097	6,073
宮城ササニシキ	5,642	5,626	5,808	5,879	5,915	5,933	5,959	6,003	6,044	5,961	5,941	5,912	5,918	5,832
秋田あきたこまち	5,806	5,814	5,822	5,915	6,017	6,121	6,155	6,209	6,238	6,269	6,246	6,205	6,200	6,142
山形はえぬき(内陸)	5,774	5,736	6,005	6,191	6,076	6,306	6,294	6,242	6,373	6,507	6,332	6,117	6,087	6,087
福島コシヒカリ(中通り)	6,520	6,520	6,520	6,515	6,507	6,507	6,610	6,610	6,610	6,507	6,507	6,507	6,507	6,610
茨城コシヒカリ	5,766	5,778	5,856	5,918	5,951	6,016	6,016	6,016	6,002	5,939	5,953	5,854	5,872	5,789
栃木コシヒカリ	5,695	5,695	5,774	5,797	5,823	5,982	5,972	6,076	6,157	6,136	6,075	6,060	6,084	5,990
千葉コシヒカリ	5,982	5,817	6,108	6,032	6,034	6,013	6,125	6,049	6,104	6,060	6,057	5,926	5,959	5,959
千葉ふさおとめ	4,945	4,997	5,098	5,096	5,115	5,194	5,289	5,316	5,368	5,384	5,373	5,421	5,391	5,359
新潟コシヒカリ(一般)	6,732	6,738	6,782	6,853	6,902	6,979	6,989	7,032	7,053	7,057	7,015	7,004	6,953	6,930
新潟コシヒカリ(魚沼)	8,514	8,508	8,591	8,687	8,806	8,936	9,021	9,124	9,214	9,284	9,421	9,533	9,616	9,640
富山コシヒカリ	6,164	6,143	6,164	6,277	6,277	6,314	6,298	6,340	6,345	6,359	6,285	6,253	6,243	6,180
福井ハナエチゼン	4,861	4,991	4,806	4,997	5,130	5,196	5,260	5,279	5,369	5,340	5,314	5,317	5,280	5,254
長野コシヒカリ	6,371	6,388	6,401	6,479	6,519	6,474	6,524	6,592	6,516	6,572	6,572	6,443	6,480	6,333
三重コシヒカリ(一般)	5,568	5,541	5,574	5,590	5,693	5,836	5,837	5,866	5,813	5,851	5,783	5,800	5,751	5,703
滋賀キヌヒカリ	4,719	4,724	4,822	4,794	4,924	4,993	4,949	4,949	4,887	4,887	4,977	5,080	5,107	5,107
滋賀日本晴	4,661	4,661	4,661	4,476	4,661	4,801	4,689	5,000	5,000	5,000	5,198	5,198	5,198	5,198
徳島コシヒカリ	5,319	5,300	5,400	5,455	5,446	5,453	5,492	5,527	5,551	5,577	5,564	5,535	5,540	5,540
徳島ハナエチゼン														
高知コシヒカリ	5,115	5,115	5,101	5,159	5,159	5,206	5,206	5,263	5,300	5,290	5,290	5,290	5,290	5,360
高知ナツヒカリ														
福岡ヒノヒカリ	4,907	4,907	4,933	4,850	4,850	4,622	5,063	5,027	5,317	5,317	5,395	5,395	5,155	5,405
福岡夢つくし	5,511	5,511	5,511	5,584	5,614	5,719	5,734	5,867	5,867	5,867	5,825	5,783	5,881	5,776
佐賀コシヒカリ	6,093	6,093	6,145	6,146	6,146	6,143	6,169	6,169	6,169	6,169	6,219	6,219	6,224	6,219
熊本コシヒカリ	6,106	6,106	6,106	6,106	6,106	6,106	6,106	6,106	5,994	6,072	6,072	6,043	6,043	6,038
熊本ヒノヒカリ	4,866	4,786	4,784	4,861	5,051	5,080	5,067	5,098	5,098	5,098	5,098	5,098	5,098	5,098
熊本キヌヒカリ														
宮崎コシヒカリ	5,260	5,260	5,260	4,984	5,034	5,034	5,034	5,034	5,034	5,022	5,022	5,022	5,022	5,022
鹿児島コシヒカリ	4,275	4,275	4,275	4,275	4,275									

資料：農林水産省「米麦等の取引動向調査(週報)」

注：全国平均価格(包装、消費税込み)である。